

椎葉村公共施設等総合管理計画
個別施設計画



令和3年3月

宮崎県 椎葉村

目 次

1	計画の背景と目的	2
2	計画の位置付け	2
3	計画の対象期間	2
4	フォローアップの実施方針	2
5	対象施設	3
6	個別施設計画	
	● 行政系施設（総務課）	4
	● 集会施設（農林振興課・教育課）	10
	● 社会教育施設（教育課）	22
	● 子育て施設（福祉保健課）	30
	● 保健福祉施設（福祉保健課）	38
	● 観光施設（地域振興課・農林振興課）	46
	● 農業施設（地域振興課・農林振興課）	56
	● 水道施設（建設課）	66
	● 発電所施設（建設課）	72
	● 通信管理施設（地域振興課）	78
	● 衛生管理施設（税務住民課）	88
	● 病院施設（病院）	94
	● その他施設（総務課・建設課）	100
	● 治山施設（農林振興課）	106

1 計画の背景と目的

本村では、戦後の高度経済成長期や近年の多様化する行政需要に応じて、これまで多くの公共施設(庁舎・学校等の公共建築物)や、道路・水道・通信設備等のインフラ系施設など(以下「公共施設等」という)を整備し、行政サービスの提供や住民生活の基盤整備等に取り組んできました。

しかし、これらの公共施設等も整備から数十年経過し老朽化が進み当初の役割を果たせず将来的な利活用が望めない施設があるほか、耐震化が必要となった施設もあります。したがって、今後は通常の維持管理に加え、大規模改修や建替、更新、解体などに要する膨大な経費が必要になると見込まれます。

一方、財政面では過疎化や少子高齢化等の進行による人口減少が影響し、村税収入の減少や義務的経費の増大などによる厳しい財政状況となっております。また、公共施設等に対する住民ニーズの変化など社会環境も大きく変化しており、今後は近年増大する公共施設等に要する経費をいかに適正水準に抑えるかが喫緊の課題となっております。

国においても老朽化対策を喫緊の課題と位置づけ、平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を定め、平成26年4月に「公共施設等総合管理計画」の策定を要請しました。このため本村では、社会環境が変化する中で計画的に効率よく公共施設等の整備や維持管理を行い、更新、統廃合、長寿命化を進めていくことで将来負担の軽減を図り、財政運営上の健全性を維持するために「椎葉村公共施設等総合管理計画」(以下「総合管理計画」という)を平成29年3月に策定しました。

次世代への負担をできる限り軽減し、財政負担を平準化するためにも、公共施設等の現状を把握し、長期的な視点で再配置の方向性や長寿命化・更新等の方針・適正化計画を早急に検討する事が求められています。

本計画は「総合管理計画」に基づき、個別施設ごとに今後の具体的な方針を示し、公共施設等を長期的に維持管理していくことでライフサイクルコストの縮減や財政負担の平準化を図ることを目的とします。

2 計画の位置付け

本計画は、「椎葉村長期総合計画」(以下「長期総合計画」という)及び「総合管理計画」を上位計画とし、総合管理計画に基づく公共施設に係る個別施設ごとの具体的な対応方針を示した計画です。

また、国の「インフラ長寿命化基本計画」の行動計画に基づく実施計画である個別施設計画として位置付けます。

なお、本個別施設計画のほか、策定済みの「椎葉村公営住宅等長寿命化計画」、「椎葉村学校施設長寿命化計画」があり、対象施設については本計画から除いています。

3 計画の対象期間

総合管理計画では中長期的な視点が不可欠なため、平成29年度から令和8年度までの10年間を計画期間としています。本計画は総合管理計画の実施計画として位置付けているため、計画期間は総合管理計画に合わせることにします。ただし、本計画は令和2年度に策定することから計画期間は令和3年度から令和8年度までの6年間とします。

また、計画については、財政状況、試算方法及び制度の変更等が生じた場合などにおいて、必要に応じて適宜見直すことにします。

4 フォローアップの実施方針

本計画は、施設所管部署が長期総合計画、総合管理計画、長寿命化計画等の各種計画との整合性を図りながら、本計画策定担当部署と協力して主体的に実施します。

対象施設については、現段階において把握できる状況の基で判断しているため、今後法制度の改正や社会情勢の動向、住民ニーズの変化等により各施設に求められる役割、機能、重要度等に変化が生じた場合には、必要に応じて見直しを行います。

また、PDCAサイクルによる進捗管理を行い、公共施設等の配置や整備方針を見直す場合には、議会や住民等に対する情報提供や意見聴取等による合意形成を図りながら十分な検討を行い、行政サービス水準の低下につながらないよう適正管理に努めます。

5 対象施設

本計画では、令和3年3月時点で本村が所有している公共施設のうち212施設を対象とします。

学校教育施設や公営住宅、道路施設等については、長寿命化計画等にて方針を定めているため本計画では除外し別に取り組みを進めていきます。

(令和3年3月末現在)

大分類	小分類	施設数	延床面積 (m ²)	所管課	計画区分
行政系施設	庁舎、行政系施設	2	5,382	総務課	個別施設計画
集会施設	公民館、集落センター、 その他集会施設	36	3,611	農林振興課 教育課	
社会教育施設	運動公園、体育館、博物館等	9	8,101	教育課	
子育て施設	児童館、保育所	8	1,812	福祉保健課	
保健福祉施設	高齢者福祉施設、その他 社会福祉施設	7	6,931	福祉保健課	
観光施設	商工観光施設	22	3,910	地域振興課 農林振興課	
農業施設	生産加工施設、畜産施設	20	21,889	農林振興課 地域振興課	
水道施設	水道施設	2	336	建設課	
発電所施設	発電所	1	193	建設課	
通信管理施設	放送センター、通信施設	17	93	地域振興課	
衛生管理施設	ゴミ処理施設、し尿処理 施設	2	600	税務住民課	
病院施設	病院、医師住宅等	3	2,485	病院	
その他施設	消防施設、倉庫	6	405	総務課 建設課	
治山施設	治山施設	77	—	農林振興課	
小計		212	55,748		
学校教育施設	小学校施設、中学校施設、 共同調理場	7	13,988	教育課	学校施設長寿命化計画
公営住宅	公営住宅、村営住宅、教 職員住宅	45	11,435	建設課	公営住宅等長寿命化計画
道路	村道、林道、農道施設	—	—	建設課	長寿命化修繕計画(村道橋)、舗装 の個別施設計画
小計		52	25,423		
合計		264	81,171		

【行政系施設】

総務課

1. 対象施設

令和2年度末現在の行政系施設は2施設で、延べ床面積の合計は5,382㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	椎葉村役場庁舎	椎葉村大字下福良1762番地1	3,701	1
2	椎葉村開発センター	椎葉村大字下福良1761-1	1,681	1
合 計			5,382	2

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

本庁舎は、総合的住民サービスの提供や村政に関する情報の発信及び受信の役割を担う、村民に身近な行政拠点施設であり、災害時の防災・災害復興拠点施設です。

また、開発センターにおいても集会施設としての利用だけではなく、災害時の避難施設となる重要な拠点施設です。

(2) 現状と課題

本村は庁舎として椎葉村役場1施設、多目的ホール等として村開発センター1施設を有しています。椎葉村役場は施設の老朽化や耐震性の不足により平成23年度に建設されました。椎葉村開発センターは昭和46年度に建設され、村で施設の維持管理を行ってきましたが平成26年度より耳川広域森林組合に指定管理者として施設管理を委託しています。両施設とも本村が有する公共施設の中でも大規模な施設となっています。

災害時において災害対策の拠点及び情報伝達の中核的機能を担う施設であることから、非常用発電装置等の管理も必要になります。他に代替できない施設であることから、施設設備の維持管理を継続的に実施します。

(3) 今後の施設の考え方

施設劣化を防止し長期的な維持管理コストを縮減していくため、点検・診断等の継続実施により、問題が確認できた場合には利用者の安全性を確保した上で、修繕等の対応策を早急に実施します。点検・診断等を踏まえた建築・改修について優先順位や維持管理方策を検討するなど、効率性や実施効果が最大となるように努めます。

また、定期的な保守点検や職員による目視確認により施設設備等の安全確保を徹底し、施設設備の問題が確認された場合には、管理方策を検討し、修繕の実施や代用設備への更新を行います。

なお、施設の大規模改修は行わず、施設の点検・診断等を踏まえた予防保全型の維持管理にて推進します。定期的な点検や維持管理を行うことで施設の長期的な利用を実現します。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	椎葉村役場庁舎	2012	8	RC	50	42	新	新		
2	椎葉村開発センター	1971	49	RC	50	1	済	不		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

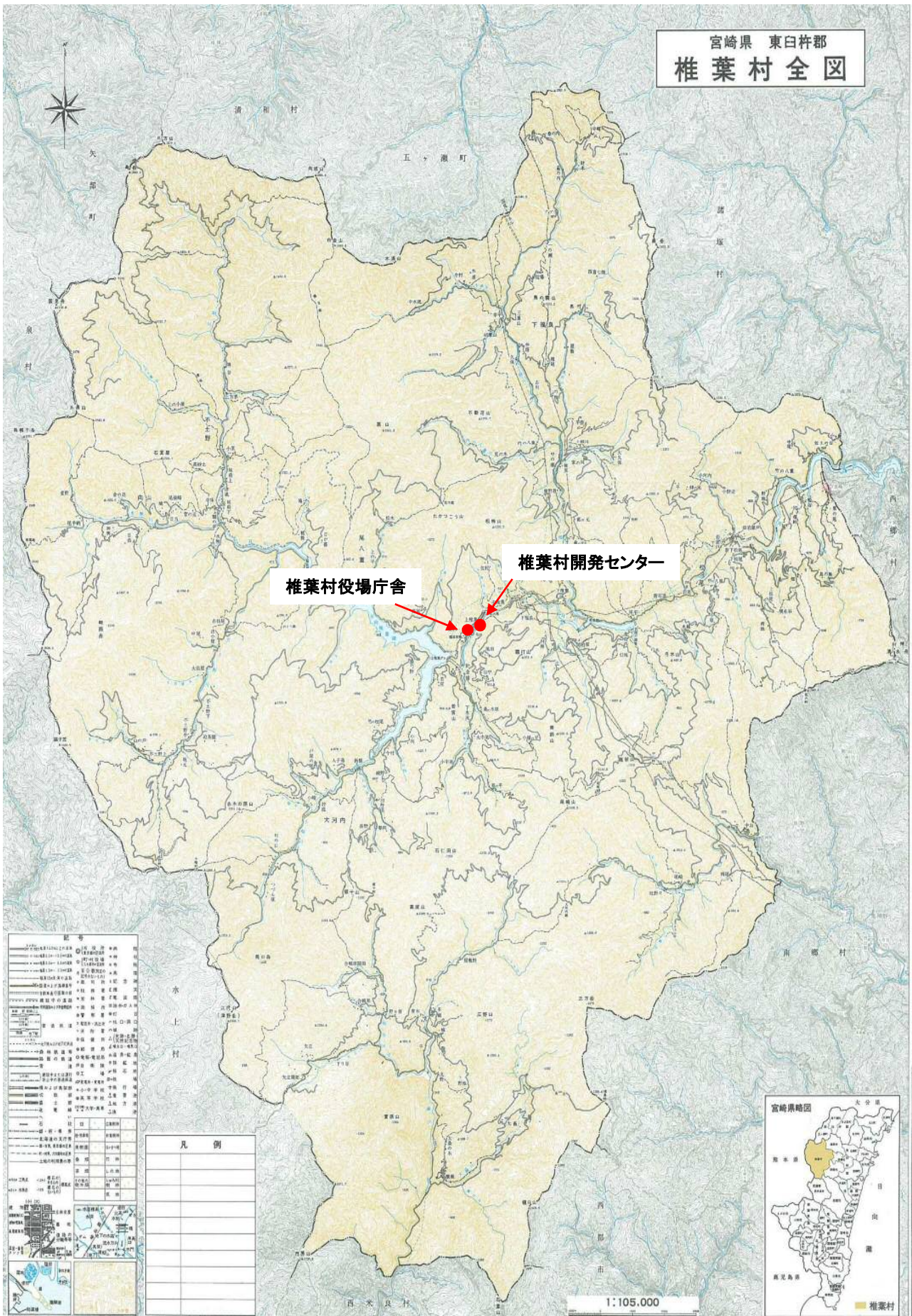
(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1人当たりコスト(円)
1	椎葉村役場庁舎	3,701	247	3,362	51,712,725	13,973	15,382
2	椎葉村開発センター	1,681	247	9,392	5,381,683	3,202	574

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

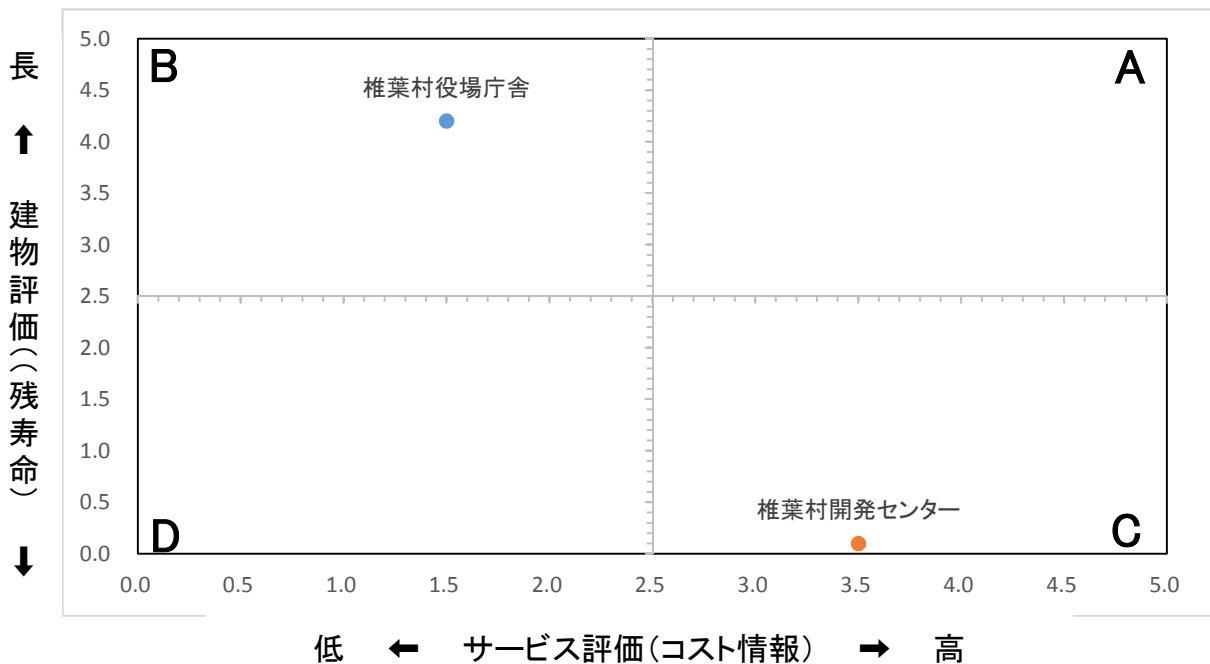
(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	施設の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

〈計算式〉

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1人当たりコスト

1人当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりコストの点数 + 1人当たりコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	椎葉村役場庁舎	定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行います。
2	椎葉村開発センター	令和3年度に耐用年数を迎えるが、大規模改修は行わず定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえて指定管理者との連携を図りながら、予防保全型の効率的な維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行います。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	椎葉村役場庁舎	庁舎	対策内容	維持・改修	点検・診断	維持	維持	維持	維持
			対策費用	2,732	1,000	500	500	500	500
		太陽光発電機	対策内容	改修					点検
			対策費用	240					200
		電気自動車急速充電器	対策内容		点検				
			対策費用		200				
2	椎葉村開発センター	集会施設	対策内容	維持	点検・診断	維持	維持	維持	維持
			対策費用	4,929	5,500	5,000	5,000	5,000	5,000

【集会施設】

農林振興課
教育課

1. 対象施設

令和2年度末現在の集会施設は36施設で、延べ床面積の合計は3,611㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	間柏原多目的集会センター	椎葉村大字下福良375番地205	76	1
2	若宮多目的集会センター	椎葉村大字下福良54番地1	59	1
3	桑の木原集会センター	椎葉村大字下福良107番地77	76	1
4	木浦集会センター	椎葉村大字下福良1373番地2	49	1
5	尾八重集落センター	椎葉村大字下福良2226番地	77	1
6	内の八重集落センター	椎葉村大字下福良1558番地93	74	1
7	夜狩内集会センター	椎葉村大字下福良439番地	85	1
8	滝集会センター	椎葉村大字下福良2197番地	99	1
9	中の八重集落センター	椎葉村大字松尾260番地	56	1
10	向山日当多目的集会施設	椎葉村大字不土野589番地乙	160	1
11	古枝尾集会センター	椎葉村大字不土野1138番地	90	1
12	柵尾集落センター	椎葉村大字大河内234番地1	79	1
13	小崎集落センター	椎葉村大字大河内1669番地21	163	1
14	大藪集落センター	椎葉村大字大河内500番地43	106	1
15	川の間集落センター	椎葉村大字大河内1407番地2	90	1
16	合戦原集会所	椎葉村大字大河内1302番地606	103	1
17	矢立集会所	椎葉村大字大河内1302番地608	103	1
18	本郷地区集会所	椎葉村大字大河内918番地1	103	1
19	大河内農村広場休憩所	椎葉村大字大河内字平726番地2	60	1
20	丸野地区集会所	椎葉村大字大河内677番地156	103	1
21	十根川営農研修センター	椎葉村大字下福良895番地2	90	1
22	奥村営農研修センター	椎葉村大字下福良1028番地	90	1
23	尾手納営農研修センター	椎葉村大字不土野760番地1	170	1
24	向山日添営農研修センター	椎葉村大字不土野907番地2	160	1
25	尾前上営農研修センター	椎葉村大字不土野302番地口号	90	1
26	竹の八重営農研修センター	椎葉村大字松尾1111番地1	90	1
27	水越営農研修センター	椎葉村大字松尾40番地1	90	1
28	小河内営農研修センター	椎葉村大字松尾1336番地2	90	1
29	榎峠営農研修センター	椎葉村大字松尾716番地	90	1
30	栗の尾営農研修センター	椎葉村大字松尾937番地1	97	1
31	下松尾営農研修センター	椎葉村大字松尾字引地396番地	100	1
32	竹の枝尾日当営農研修センター	椎葉村大字大河内1939番地10	95	1
33	竹の枝尾日添営農研修センター	椎葉村大字大河内1902番地2	101	1
34	臼杵又営農研修センター	椎葉村大字大河内1801番地	90	1
35	不土野生活改善センター	椎葉村大字不土野字茸木谷1377番地1	120	1
36	大河内生活改善センター	椎葉村大字大河内1012番地96	237	1
合 計			3,611	36

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

集会施設は、各地域の活動拠点として重要な役割を果たしています。
常会等の地域の話し合いの場であり、神楽などの伝統芸能・文化の継承、検診やサロンといった生きがいがづくりの場など多面的な役割を担っています。

(2) 現状と課題

建設から数十年経過し老朽化がみられます。
また、人口減少に伴い施設の維持管理に支障をきたす事が懸念されます。

(3) 今後の施設の考え方

施設の維持管理については今後も地元で実施します。
施設の修繕等については、地元の要望に基づき教育課の修繕事業を活用して順次実施します。
施設の新設は補助事業等がないため行いません。
また、高齢化や人口減少等により施設の維持管理が困難な場合や必要性が無くなった施設については、地元と協議しながら用途変更や廃止等を含めて検討していきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	間柏原多目的集会センター	1981	39	W	22	0	済	不		
2	若宮多目的集会センター	1982	38	W	22	0	新	新		
3	桑の木原集会センター	1983	37	W	22	0	新	新		
4	木浦集会センター	1982	38	W	22	0	新	新		
5	尾八重集落センター	1984	36	W	22	0	新	新		
6	内の八重集落センター	1985	35	W	22	0	新	新		
7	夜狩内集会センター	1986	34	W	22	0	新	新		
8	滝集会センター	1988	32	W	22	0	新	新		
9	中の八重集落センター	1985	35	W	22	0	新	新		
10	向山日当多目的集会施設	1996	24	W	22	0	新	新		
11	古枝尾集会センター	1989	31	W	22	0	新	新		
12	梶尾集落センター	1982	38	W	22	0	新	新		
13	小崎集落センター	1983	37	W	22	0	新	新		
14	大藪集落センター	1984	36	W	22	0	新	新		
15	川の口集落センター	1984	36	W	22	0	新	新		
16	合戦原集会所	1984	36	W	22	0	新	新		
17	矢立集会所	1983	37	W	22	0	新	新		
18	本郷地区集会所	1987	33	W	22	0	新	新		
19	大河内農村広場休憩所	1984	36	W	22	0	新	新		
20	丸野地区集会所	1986	34	W	22	0	新	新		
21	十根川営農研修センター	1991	29	W	22	0	新	新		
22	奥村営農研修センター	1992	28	W	22	0	新	新		
23	尾手納営農研修センター	2005	15	W	22	7	新	新		
24	向山日添営農研修センター	1994	26	W	22	0	新	新		
25	尾前上営農研修センター	1995	25	W	22	0	新	新		
26	竹の八重営農研修センター	1992	28	W	22	0	新	新		
27	水越営農研修センター	1993	27	W	22	0	新	新		
28	小河内営農研修センター	1993	27	W	22	0	新	新		
29	榎峠営農研修センター	1995	25	W	22	0	新	新		
30	栗の尾営農研修センター	1997	23	W	22	0	新	新		
31	下松尾営農研修センター	1999	21	W	22	1	新	新		
32	竹の枝尾日当営農研修センター	2001	19	W	22	3	新	新		
33	竹の枝尾日添営農研修センター	2006	14	W	22	8	新	新		
34	臼杵又営農研修センター	1996	24	W	22	0	新	新		
35	不土野生活改善センター	1981	39	S	34	0	未	不		
36	大河内生活改善センター	1978	42	S	34	0	未	未		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数-経過年数〔基準年度-建築年度〕

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

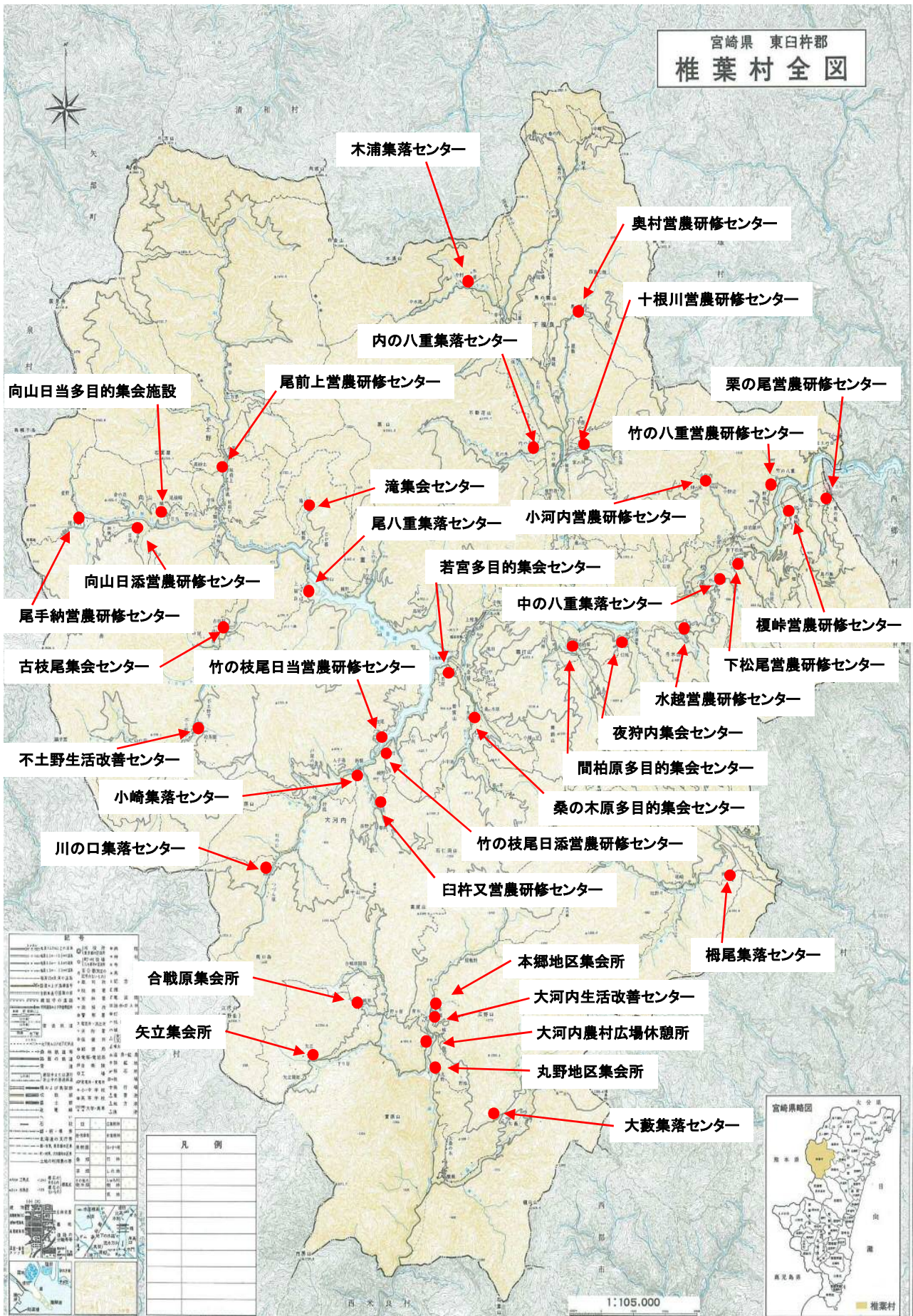
※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

(2)利用・運営状況

No.	施設名	総床面積 (㎡)	稼働日数 (日)	年間利用者 数(人)	年間コスト (円)	㎡当たり コスト(円)	1日当たり利 用人数(人)
1	間柏原多目的集会センター	76	50	170	0	0	4
2	若宮多目的集会センター	59	50	120	0	0	3
3	桑の木原集会センター	76	50	300	0	0	6
4	木浦集会センター	49	20	50	0	0	3
5	尾八重集落センター	77	50	200	0	0	4
6	内の八重集落センター	74	50	145	0	0	3
7	夜狩内集会センター	85	50	180	0	0	4
8	滝集会センター	99	15	40	0	0	3
9	中の八重集落センター	56	50	145	0	0	3
10	向山日当多目的集会施設	160	50	350	0	0	7
11	古枝尾集会センター	90	50	150	0	0	3
12	樽尾集落センター	79	50	230	0	0	5
13	小崎集落センター	163	50	200	0	0	4
14	大藪集落センター	106	50	180	0	0	4
15	川の口集落センター	90	50	380	0	0	8
16	合戦原集会所	103	50	180	0	0	4
17	矢立集会所	103	50	260	0	0	6
18	本郷地区集会所	103	50	230	0	0	5
19	大河内農村広場休憩所	60	100	300	0	0	3
20	丸野地区集会所	103	30	250	0	0	9
21	十根川営農研修センター	90	50	150	0	0	3
22	奥村営農研修センター	90	30	120	0	0	4
23	尾手納営農研修センター	170	50	250	0	0	5
24	向山日添営農研修センター	160	50	300	0	0	6
25	尾前上営農研修センター	90	50	300	0	0	6
26	竹の八重営農研修センター	90	50	150	0	0	3
27	水越営農研修センター	90	50	110	0	0	3
28	小河内営農研修センター	90	50	240	0	0	5
29	榎峠営農研修センター	90	30	40	0	0	2
30	栗の尾営農研修センター	97	50	120	0	0	3
31	下松尾営農研修センター	100	50	230	0	0	5
32	竹の枝尾日当営農研修センター	95	50	230	0	0	5
33	竹の枝尾日添営農研修センター	101	50	110	0	0	3
34	白杵又営農研修センター	90	50	140	0	0	3
35	不土野生活改善センター	120	50	360	0	0	8
36	大河内生活改善センター	237	50	300	0	0	6

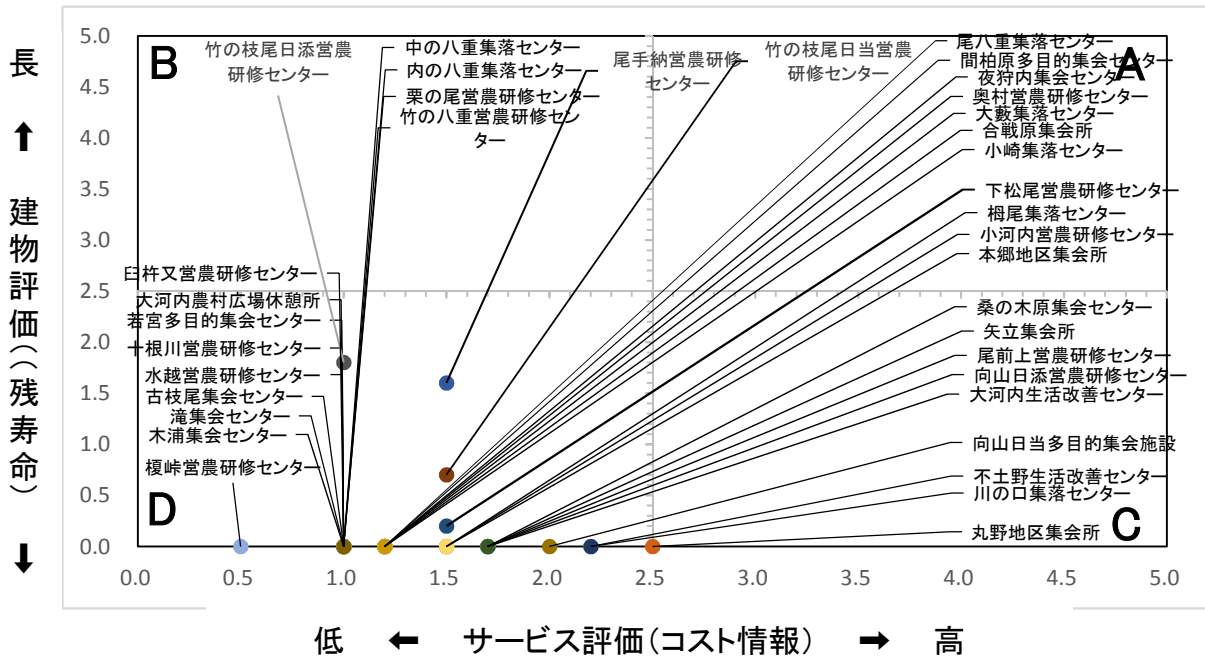
(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○m²当たりコスト

m²当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たり利用人数

1日当たり利用人数が最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (m²当たりコストの点数 + 1日当たり利用人数の点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	間柏原多目的集会センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
2	若宮多目的集会センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
3	桑の木原集会センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
4	木浦集会センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
5	尾八重集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
6	内の八重集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
7	夜狩内集会センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
8	滝集会センター	解体し用途廃止をいたします。
9	中の八重集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
10	向山日当多目的集会施設	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
11	古枝尾集会センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
12	柵尾集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
13	小崎集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
14	大藪集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
15	川の口集落センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
16	合戦原集会所	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
17	矢立集会所	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。

No.	施設名	方針
18	本郷地区集会所	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
19	大河内農村広場休憩所	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
20	丸野地区集会所	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
21	十根川営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
22	奥村営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
23	尾手納営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
24	向山日添営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
25	尾前上営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
26	竹の八重営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
27	水越営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
28	小河内営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
29	榎峠営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
30	栗の尾営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
31	下松尾営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
32	竹の枝尾日当営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
33	竹の枝尾日添営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
34	白杵又営農研修センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
35	不土野生活改善センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。
36	大河内生活改善センター	地域と協議を行いながら、必要な改修・修繕を実施します。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	間柏原多目的集会センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
2	若宮多目的集会センター	集会所	対策内容 対策費用						
3	桑の木原集会センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
4	木浦集会センター	集会所	対策内容 対策費用						
5	尾八重集落センター	集会所	対策内容 対策費用						
6	内の八重集落センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
7	夜狩内集会センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
8	滝集会センター	集会所	対策内容 対策費用	用途廃止					
9	中の八重集落センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
10	向山日当多目的集会施設	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
11	古枝尾集会センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
12	梅尾集落センター	集会所	対策内容 対策費用						
13	小崎集落センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
14	大藪集落センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
15	川の口集落センター	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
16	合戦原集会所	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
17	矢立集会所	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
18	本郷地区集会所	集会所	対策内容 対策費用						改修 1,000
19	大河内農村広場休憩所	休憩所	対策内容 対策費用						改修 1,000
20	丸野地区集会所	ニューホープ センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
21	十根川営農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
22	奥村営農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
23	尾手納営農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						
24	向山日添営農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
25	尾前上営農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
26	竹の八重宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
27	水越宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
28	小河内宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
29	榎峠宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
30	栗の尾宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
31	下松尾宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
32	竹の枝尾日当宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
33	竹の枝尾日添宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
34	臼杵又宮農研修センター	研修センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
35	不土野生活改善センター	生活改善 センター	対策内容 対策費用						改修 1,000
36	大河内生活改善センター	生活改善 センター	対策内容 対策費用						改修 1,000

【社会教育施設】

教育課

1. 対象施設

令和2年度末現在の社会教育施設は9施設で、延べ床面積の合計は8,101㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	大いちょうふれあいセンター	椎葉村大字松尾409番地5	994	2
2	鹿野遊ふれあいセンター	椎葉村大字下福良1647番地	1,213	2
3	椎葉村総合運動公園	椎葉村大字下福良54番地の2	2,294	2
4	尾八重地区体育施設	椎葉村大字下福良2327番地の7	574	2
5	椎葉民俗芸能博物館	椎葉村大字下福良1822番地4	1,189	1
6	十根川保存地区民家公開施設	椎葉村大字下福良936番地1	238	2
7	仲塔溪谷の館	椎葉村大字下福良1183番地	844	2
8	財木地区集会所	椎葉村大字下福良1259番地	375	1
9	尾向交流拠点施設 irori	椎葉村大字不土野388番地2ほか	380	1
合 計			8,101	15

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

- ・地域活動の拠点(集会・イベント)
- ・地域スポーツの拠点、健康増進
- ・文化や歴史の保存継承及び対外に向けた観光PR発信の拠点
- ・地域住民の冠婚葬祭の場としての提供
- ・避難所としての提供

(2) 現状と課題

構築から複数年経過し、老朽化が目立つようになってきました。これに伴い補修等、維持管理に経費が高まっているのが現状です。施設の長寿命化を図る上においては、適正な管理を行うことが必要です。小さな傷みも放置することなく、本体そのものの欠陥につながることを防ぐよう、その都度対応を行います。また、近年、浮き彫りとなってきている課題が照明機器です。水銀灯の製造中止に伴い、LEDへと転換する時期に来ており、これについては施設の改修・補修とともに交換を促進していきます。

(3) 今後の施設の考え方

上記に述べたように各施設とも老朽化が目立つようになってきたが、これについては突発的な対応を除き、各施設の傷み具合を最優先に公共性や利用頻度等を勘案した上で、順位付けを行い、計画的に整備を進めていきます。ただし、文科省所管の社会教育施設整備に対する補助事業は設けられていないため、計画的な整備が立てられないといった課題はあるが、これには他分野において活用できる補助金を用いて整備を進めていきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	大いちょうふれあいセンター	2015	5	W	22	17	新	新		
2	鹿野遊ふれあいセンター	1982	38	RC	47	9	新	新		
3	椎葉村総合運動公園	1982	38	SRC	34	0	新	新	2011	屋
4	尾八重地区体育施設	1988	32	W	22	0	新	新		
5	椎葉民俗芸能博物館	1996	24	RC	50	26	新	新		
6	十根川保存地区民家公開施設	2000	20	W	24	4	新	新		
7	仲塔溪谷の館	1982	38	RC	47	9	新	済	2018	他
8	財木地区集会所	1977	43	S	34	0	未	未		
9	尾向交流拠点施設 irori	2020	0	W	22	22	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造: W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数: 耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断: 新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修: 新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

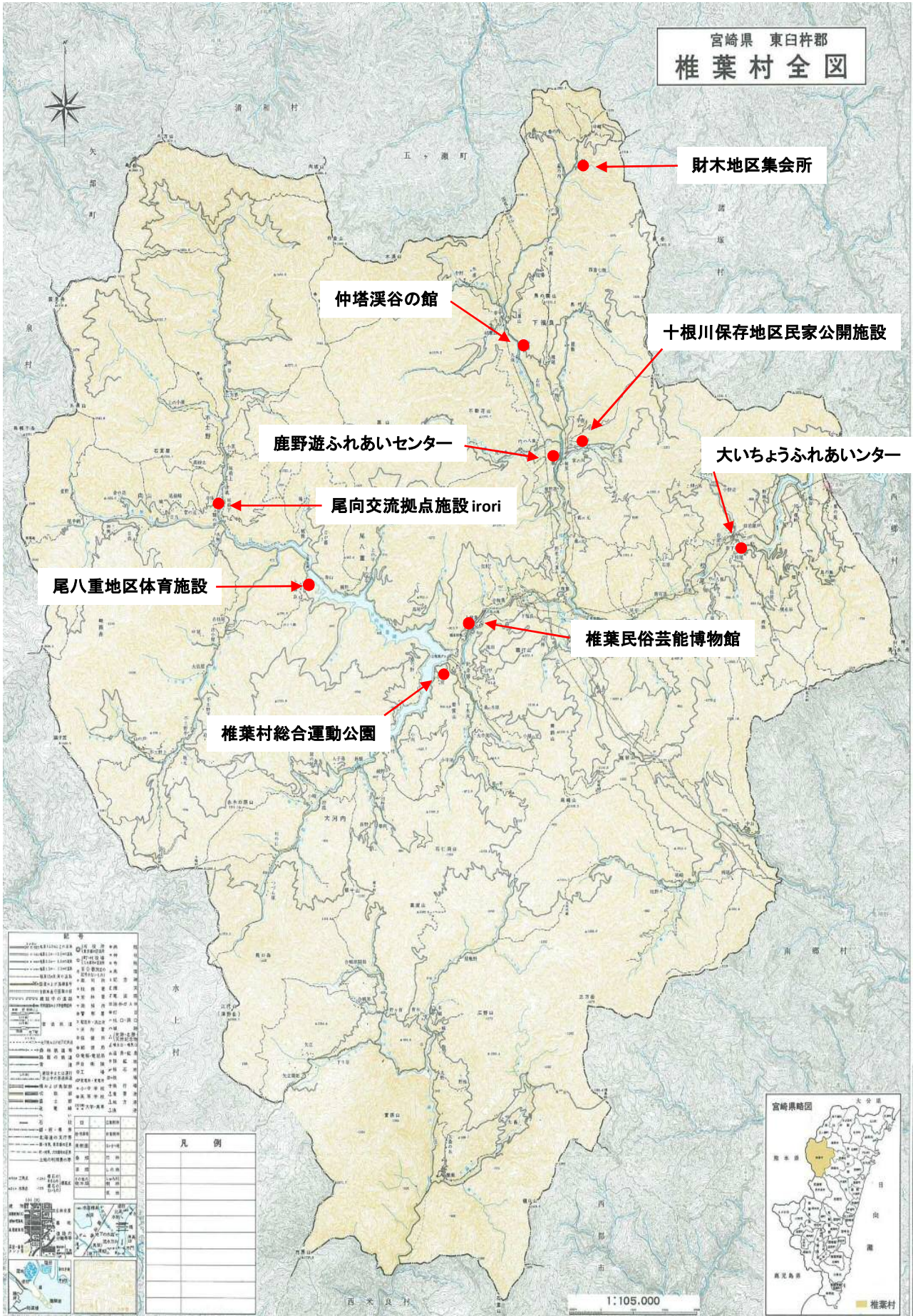
※大規模改修: 屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1日当たり利用人数(人)
1	大いちょうふれあいセンター	994	156	3,299	16,160,068	16,258	22
2	鹿野遊ふれあいセンター	1,213	60	250	356,103	294	5
3	椎葉村総合運動公園	2,294	202	2,826	1,480,102	646	14
4	尾八重地区体育施設	574	10	150	204,088	356	15
5	椎葉民俗芸能博物館	1,189	360	5,082	6,956,164	5,851	15
6	十根川保存地区民家公開施設	238	9	59	124,956	526	7
7	仲塔溪谷の館	844	51	669	28,186,021	33,396	14
8	財木地区集会所	375	22	150	69,047	185	7
9	尾向交流拠点施設 irori	380	0	0	0	0	0

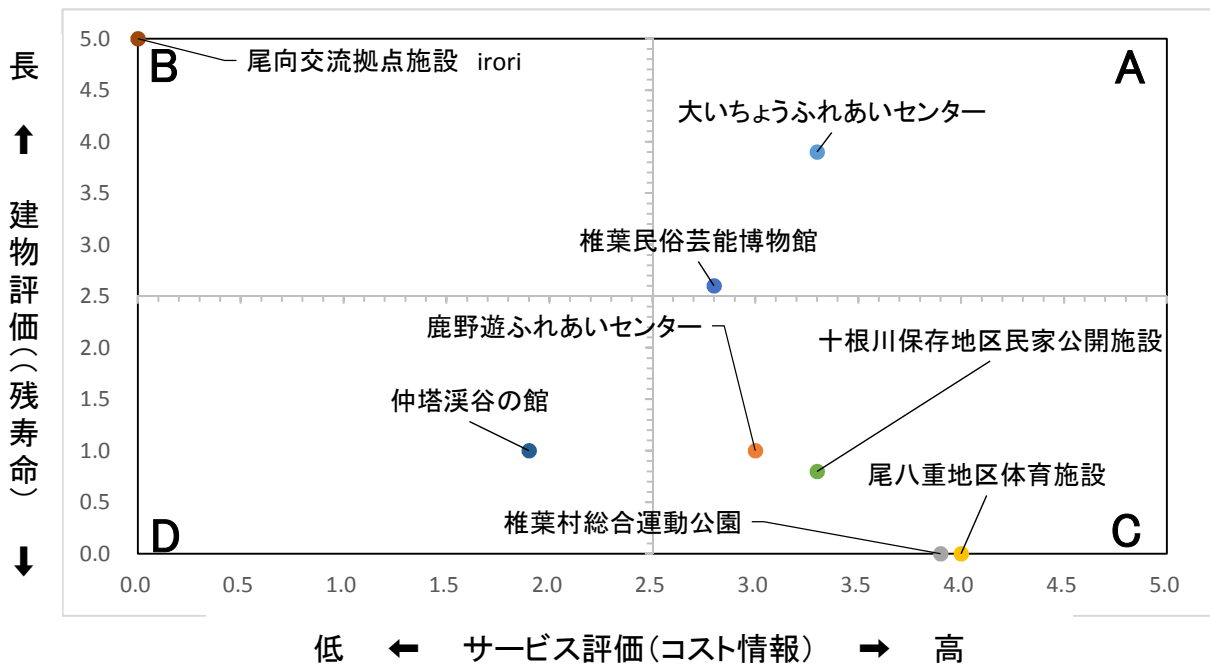
(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

〈計算式〉

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たり利用人数

1日当たり利用人数が最も多い施設を5点、最も少ない施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たり利用人数の点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	大いちょうふれあいセンター	体育館の大規模改修も済み、地区民のコミュニティーの中心活動場所として、また、健康増進拠点として継続利用していきます。日常の点検を通して、都度修繕で対応していきます。
2	鹿野遊ふれあいセンター	センターについては令和2年度に雨漏り補修と内装の一部改修を施しました。ここについては避難所としての活用に安全性を確保できるかの検討が必要です。体育館については被災した建物を解体し、移転も含めた検討を行います。
3	椎葉村総合運動公園	管理人による維持管理を継続し、日常の点検を通して都度修繕で対応していきます。体育館は計画期間内の大規模改修は予定していないが、照明機器の改修(LED化)を計画し、これと同時に体育館駐車場の舗装補修も計画します。
4	尾八重地区体育施設	体育館は必要に応じて大規模改修を計画し、建物の長寿命化を図ります。日常の点検を通して、都度修繕で対応していきます。
5	椎葉民俗芸能博物館	管理人による維持管理を継続し、日常の点検を通して都度修繕で対応していきます。
6	十根川保存地区民家公開施設	指定管理者による管理体制に移行することを検討しています。現在は休止状態となっており、従来の体験型滞在施設としての活用が図れる体制づくりが必要です。使用が頻度化されることで施設の点検も日常的に行うことができます。
7	仲塔溪谷の館	管理人による維持管理を継続し、日常の点検を通して都度修繕で対応していきます。体育館においては老朽化も見受けられるため、計画期間内に大規模改修を行い、長寿命化を図ります。
8	財木地区集会所	財木地区の集会所として利用されています。ここについては平成26年度に福祉保健課がバリアフリー化を施しており、当面改修は必要としていません。ただし、この時整備したトイレの水洗化が適正でなく、浄化槽の設置が必要です。
9	尾向交流拠点施設 irori	令和2年度に新築され、地区民のコミュニティー施設及び観光客等の宿泊施設として使用していきます。管理人による維持管理と日常の点検を行っています。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	大いちょうふれあいセンター	集会所	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		体育館	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
2	鹿野遊ふれあいセンター	集会所・ 給食室	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		体育館	対策内容 対策費用	建替 100,000	点検	点検	点検	点検	点検
3	椎葉村総合運動公園	倉庫・武道 館・便所	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		体育館	対策内容 対策費用	診断 3,000	改修 15,000	点検	点検	点検	点検
4	尾八重地区体育施設	運動場	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		体育館	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
5	椎葉民俗芸能博物館	展示館・管理 棟・読書室・多 目的ホール	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
6	十根川保存地区民家公開施設	主屋	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		馬屋	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
7	仲塔溪谷の館	宿泊施設(鉄筋 コンクリート造)	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		宿泊施設 (木造)	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		体育館	対策内容 対策費用	点検	点検	診断 2,500	改修 12,000	点検	点検
8	財木地区集会所	集会所	対策内容 対策費用	改修 500	点検	点検	点検	点検	点検
9	尾向交流拠点施設 irori	集会所・宿泊 施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	点検	点検

【子育て施設】

福祉保健課

1. 対象施設

令和2年度末現在の子育て施設は8施設で、延べ床面積の合計は1,812㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	上椎葉児童館	椎葉村大字下福良1826番地69	299	1
2	小崎児童館	椎葉村大字大河内1783番地ノ14	224	1
3	向山児童館	椎葉村大字不土野1009番地ノ2	185	1
4	大河内保育所	椎葉村大字大河内1111番地	98	1
5	不土野保育所	椎葉村大字不土野1396番地	58	1
6	椎葉中央保育所	椎葉村大字下福良1829番地2	404	1
7	松尾保育所	椎葉村大字松尾409番地12	241	1
8	尾向保育所	椎葉村大字不土野386番地1	303	1
合 計			1,812	8

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

子ども・子育て基本法を基に幼児期の教育・保育を提供する事を目的としており、地域の子ども・子育て支援の役割を担っています。

(2) 現状と課題

児童厚生施設(児童館)として使用していた施設、休園中の施設については、用途廃止等の判断を行い、転用・譲渡等、施設毎の状況に応じた対応を行っていく必要があります。
継続使用中の施設については、建築年数が経過し、建物及び設備に劣化が見られるものがあるため、適宜、改修・修繕を行う必要があります。

(3) 今後の施設の考え方

児童福祉施設として継続利用する施設はもとより、休園中施設、用途廃止が必要な施設についても、効果的な運用ができる施設として転用等の判断を行い、以後、それぞれの管理者において定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	上椎葉児童館	1993	27	W	22	0	新	新		
2	小崎児童館	1998	22	W	22	0	新	新		
3	向山児童館	1996	24	W	22	0	新	新	2007	屋
4	大河内保育所	2010	10	W	22	12	新	新	2019	他
5	不土野保育所	1999	21	W	22	1	新	新	2013	他
6	椎葉中央保育所	2018	2	W	22	20	新	新		
7	松尾保育所	1997	23	W	22	0	新	新	2019	他
8	尾向保育所	2020	0	W	22	22	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造: W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数: 耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断: 新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修: 新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修: 屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

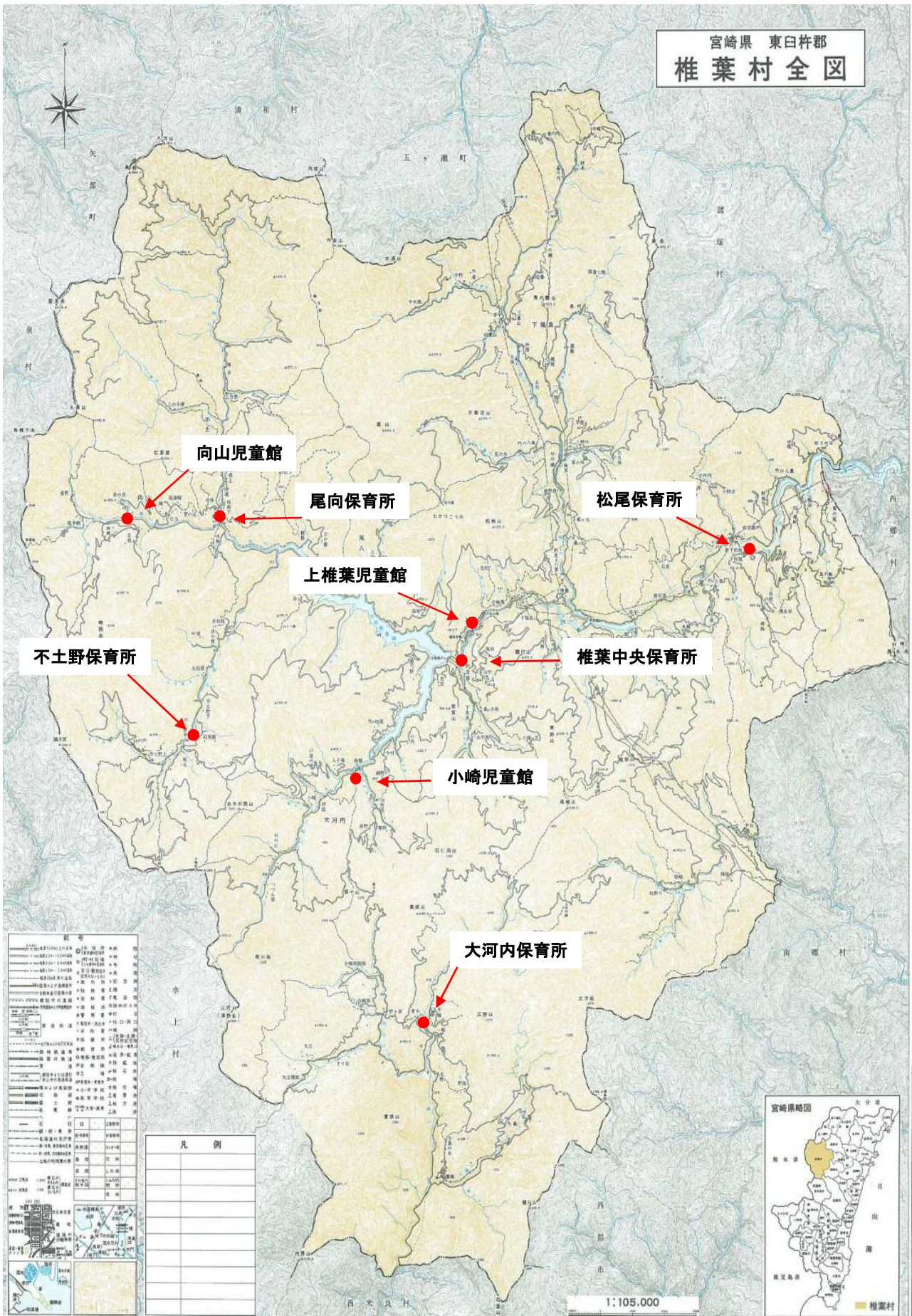
(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積 (㎡)	稼働日数 (日)	利用者数 (人)	年間コスト (円)	㎡当たり コスト(円)	1人当たり コスト(円)
1	上椎葉児童館	299	153	4,009	16,600,667	55,521	4,141
2	小崎児童館	224	36	360	174,000	777	484
3	向山児童館	185	225	3,493	13,694,667	74,026	3,921
4	大河内保育所	98	225	2,276	7,977,667	81,405	3,506
5	不土野保育所	58	150	1,440	4,479,000	77,225	3,111
6	椎葉中央保育所	404	75	4,629	18,934,117	46,867	4,091
7	松尾保育所	241	225	3,492	13,391,667	55,568	3,835
8	尾向保育所	303	0	0	0	0	0

(注) 稼働日数、利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

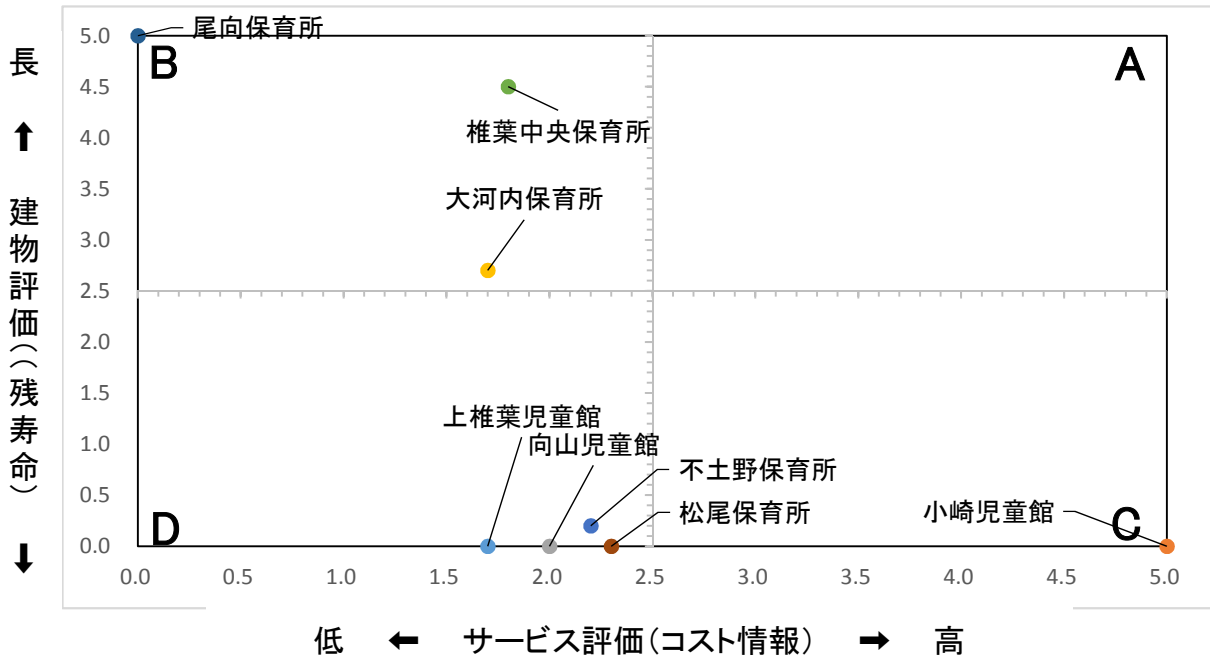
(注) 利用者数は、年度末時点(3.31)の在籍者数(職員含む)の過去3年間(H29～R1年度)平均値を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点数を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度) 建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1人当たりコスト

1人当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりコストの点数 + 1人当たりコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	上椎葉児童館	児童厚生施設としては廃止手続きをします。今後、次期管理者において定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
2	小崎児童館	児童厚生施設としては廃止手続きをします。今後、次期管理者において定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
3	向山児童館	児童厚生施設としては廃止手続きをします。今後、次期管理者において定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
4	大河内保育所	保育施設として継続利用しながら、定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
5	不土野保育所	休園中の保育施設であるが、用途等検討し、次期管理者において定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
6	椎葉中央保育所	保育施設として継続利用しながら、定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
7	松尾保育所	耐用年数を経過しているため、必要最小限の修繕を行いながら引き続き施設を維持し、保育施設として継続利用していきます。
8	尾向保育所	定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	上椎葉児童館	児童館	対策内容	用途廃止	転用				
			対策費用	0					
2	小崎児童館	児童館	対策内容	用途廃止	転用				
			対策費用	0					
3	向山児童館	児童館	対策内容	用途廃止	転用				
			対策費用	0					
4	大河内保育所	保育所	対策内容	修繕	修繕	修繕	点検	改修	修繕
			対策費用	30	30	30	200	500	30
5	不土野保育所	保育所	対策内容	修繕	修繕	修繕	修繕	点検	改修
			対策費用	30	30	30	30	200	500
6	椎葉中央保育所	保育所	対策内容	修繕	修繕	点検	改修	修繕	修繕
			対策費用	30	30	200	500	30	30
7	松尾保育所	保育所	対策内容	修繕	点検	改修	修繕	修繕	修繕
			対策費用	30	200	500	30	30	30
8	尾向保育所	保育所	対策内容	修繕	修繕	修繕	修繕	点検	改修
			対策費用	30	30	30	30	200	500

【保健福祉施設】

福祉保健課

1. 対象施設

令和2年度末現在の保健福祉施設は7施設で、延べ床面積の合計は6,931㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	総合保健センター	椎葉村大字下福良1762番地1	752	1
2	特別養護老人ホーム「平寿園」	椎葉村大字下福良54-337	3,872	1
3	高齢者センター	椎葉村大字下福良1761番地1	299	1
4	高齢者共同生活支援施設	椎葉村大字下福良1762番地1	417	1
5	柵尾地区介護支援施設	椎葉村大字大河内185番地13	951	2
6	椎葉おおもり歯科クリニック	椎葉村大字下福良1773番地1	192	1
7	多目的運動広場	椎葉村大字下福良106番地70	448	1
合 計			6,931	8

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

住民の健康保持、福祉の向上の役割を担う施設で、人口減少による高齢化率の上昇が進むうえで、それぞれの施設の果たす役割が重要となってきています。

(2) 現状と課題

施設設備の改築や改修、修繕等は計画的に実施しているが、人口減少や人材不足による運営基盤に課題が生じてきています。

(3) 今後の施設の考え方

定期的な点検・診断による適切な維持管理を行っていくことで、村民の健康保持と福祉の向上のための役割を担っていく施設としていきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	総合保健センター	1999	21	S	34	13	新	新	2020	他
2	特別養護老人ホーム「平寿園」	2016	4	SRC	47	43	新	新	-	-
3	高齢者センター	1984	36	S	34	0	新	新		
4	高齢者共同生活支援施設	2003	17	W	22	5	新	新		
5	榎尾地区介護支援施設	1985	35	SRC	47	12	新	新	2003	他
6	椎葉おおもり歯科クリニック	2011	9	RC	50	41	新	新		
7	多目的運動広場	2002	18	S	34	16	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数-経過年数[基準年度-建築年度]

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

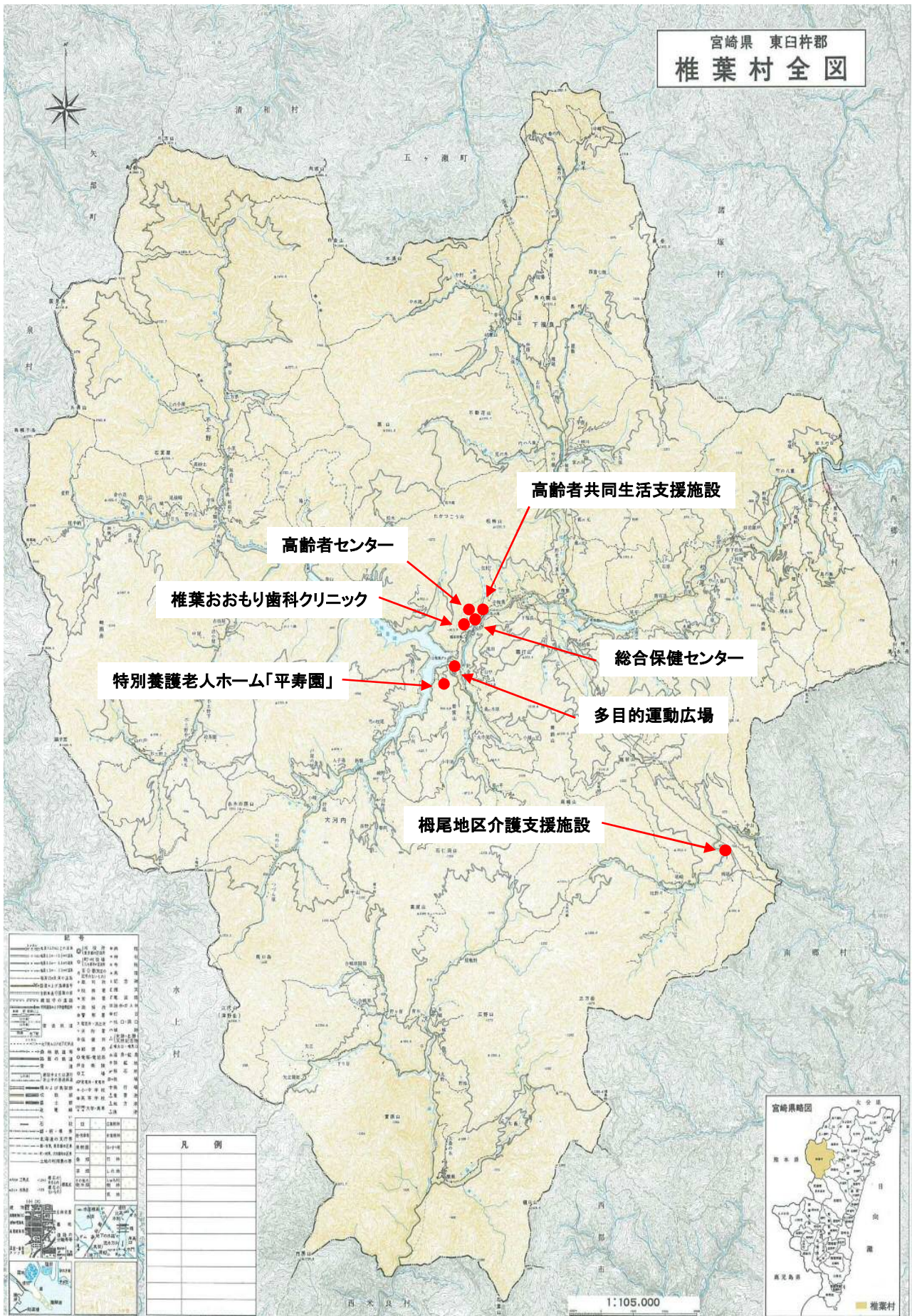
(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1日当たり利用人数(人)
1	総合保健センター	752	247	20,000	4,045,040	5,380	81
2	特別養護老人ホーム「平寿園」	3,872	365	30,981	29,707,040	7,673	85
3	高齢者センター	299	247	2,242	370,334	1,239	10
4	高齢者共同生活支援施設	417	365	2,958	500,000	1,200	9
5	榎尾地区介護支援施設	951	205	350	252,519	266	2
6	椎葉おおもり歯科クリニック	192	263	4,236	5,307,953	27,646	17
7	多目的運動広場	448	247	567	571,667	1,277	3

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

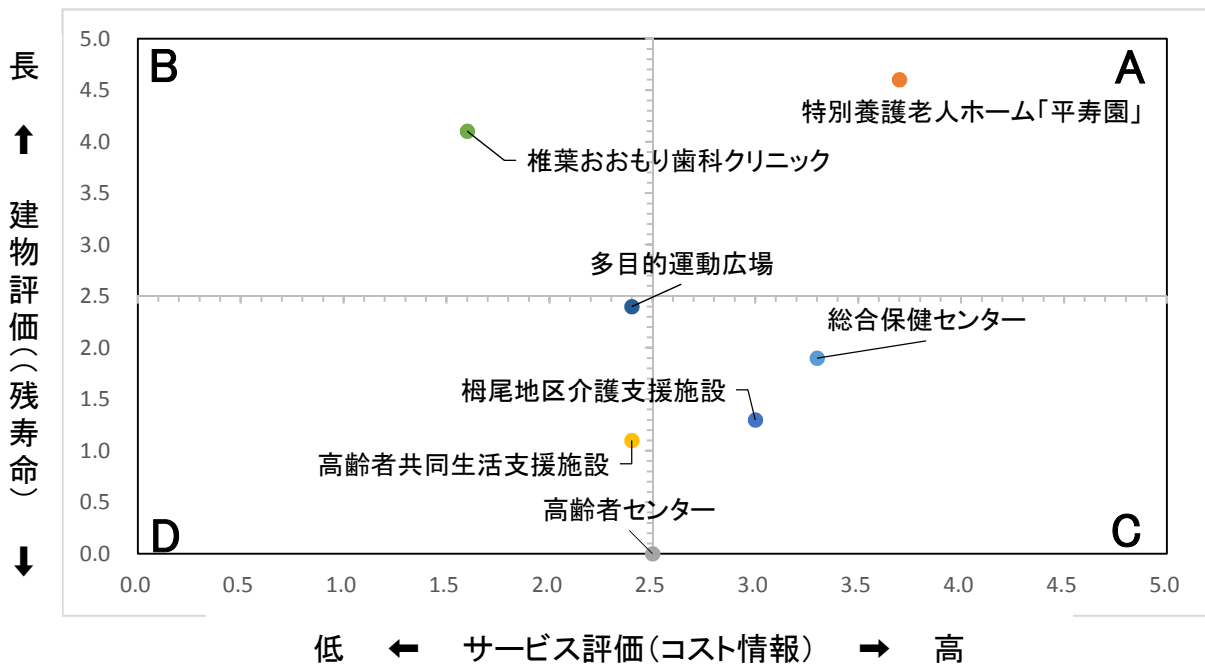
(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載(保健センターについては社会福祉協議会を含む)

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点数を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たり利用人数

1日当たり利用人数が最も多い施設を5点、最も少ない施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たり利用人数の点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	総合保健センター	村の介護、保健予防、高齢者福祉において、中枢的な役割を担っている施設であるが、築年数が経過し、建物及び設備の劣化が見られるため、状況に応じて適宜、改修、修繕を行っていきます。
2	特別養護老人ホーム「平寿園」	定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
3	高齢者センター	年間を通じて多くの稼働、利用者数が見られる。利用者の多くは高齢者のため利用しやすい環境を引き続き提供しながら管理運営を行っていきます。
4	高齢者共同生活支援施設	定期的な施設の点検・診断等を実施し、その結果を踏まえた予防保全型の維持管理を行うことで長期的な施設の利用を行っていきます。
5	榎尾地区介護支援施設	利用者のほとんどが地区の方々で高齢者であるため、利用しやすい環境を引き続き提供しながら管理運営を行っていきます。
6	椎葉おおもり歯科クリニック	村内唯一の歯科医療機関として、今後も住民の歯科治療及び予防に努めながら適正な管理運営を行っていきます。
7	多目的運動広場	利用者のほとんどが村内の高齢者であるため、利用しやすい環境を引き続き提供しながら管理運営を行っていきます。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	総合保健センター	本館	対策内容	改修	改修	改修	改修	改修	改修
			対策費用	100	100	200	100	100	200
2	特別養護老人ホーム「平寿園」	本館	対策内容					点検	改修
			対策費用					200	500
3	高齢者センター	集会所	対策内容	修繕	点検	改修	修繕	修繕	修繕
			対策費用	50	200	1,300	50	50	50
4	高齢者共同生活支援施設	宿泊施設	対策内容	改修	修繕	修繕	修繕	修繕	点検
			対策費用	2,400	50	50	50	50	200
5	梅尾地区介護支援施設	集会所	対策内容	修繕	修繕	修繕	点検	改修	修繕
		対策費用	50	50	50	200	500	50	
		体育館	対策内容						
		対策費用							
6	椎葉おおもり歯科クリニック	診療所	対策内容		点検	改修		点検	改修
			対策費用		200	800		200	500
7	多目的運動広場	屋内競技場	対策内容	修繕	修繕	点検	改修	修繕	修繕
			対策費用	50	50	200	900	50	50

【觀光施設】

地域振興課
農林振興課

1. 対象施設

令和2年度末現在の観光施設は22施設で、延べ床面積の合計は3,910㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	椎葉村物産センター	椎葉村大字下福良509番地184	324	2
2	ひえつきの里キャンプ場	椎葉村大字下福良2番地12	549	6
3	矢立高原キャンプ場	椎葉村大字大河内1302番地183	293	11
4	仲塔公衆トイレ	椎葉村大字下福良1181番地1	4	1
5	十根川駐車場トイレ	椎葉村大字下福良880番地15	31	1
6	十根川神社トイレ	椎葉村大字下福良898番地1	10	1
7	上椎葉観光駐車場トイレ	椎葉村大字下福良1747番地6	22	1
8	上椎葉児童公園トイレ	椎葉村大字下福良1826番地67	37	1
9	女神像公園トイレ	椎葉村大字下福良1828番地116	39	1
10	大久保観光駐車場トイレ	椎葉村大字下福良817番地1	55	1
11	椎葉門トイレ	椎葉村大字松尾975番地41	21	1
12	境谷トイレ	椎葉村大字不土野268番地1	9	1
13	新ひむか「水車がきしむふるさと工場」	椎葉村大字不土野627番地の23	128	2
14	化粧の水	椎葉村大字下福良1822番地	8	2
15	しいば土俵	椎葉村大字下福良1822番地	81	1
16	扇山山小屋	椎葉村大字下福良 横野国有林内	20	1
17	松尾大いちょう広場	椎葉村大字松尾383番地1	44	2
18	扇山登山口バイオトイレ	椎葉村大字下福良 横野国有林内	7	1
19	宮交バス車庫トイレ	椎葉村大字下福良1810番地2	3	1
20	小崎公衆トイレ	椎葉村大字大河内1675番地1	2	2
21	椎葉村交流拠点施設	椎葉村大字下福良1829番地57	1,820	1
22	森林体験交流施設	椎葉村大字下福良970番地	403	3
合 計			3,910	44

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

椎葉村物産センターについては、物産センターを拠点とした特産品開発とその流通拡大を図り、もって住民の活性化に寄与するほか、訪問者の憩いの場として本村の観光振興を推進することを目的としています。

キャンプ場については、住民への憩いの場の提供及び青少年の野外訓練活動の場や都市部との交流の場を提供し、住民の活性化に寄与することを目的としています。

村内各観光トイレ等については、広大な面積を有する本村にあって、住民の福祉の向上及び観光旅行者の利便を図ることを目的としています。

椎葉村拠点交流施設katerieについては、椎葉村が持続し続けるために必要な人材育成や活性化の取り組み、交流人口の拡大など様々な面において期待されています。

その他の観光施設については、本村の観光振興並びに地域活性化、観光旅行者の増加を目的に設置されています。

森林体験交流施設は、交流施設を拠点として森林レクリエーション的並びに都市住民との交流促進を促し、特産品開発とその流通拡大を図り、地域住民の活性化に寄与するほか、観光振興を推進するために設置しています。

(2) 現状と課題

椎葉村物産センター及びキャンプ場、観光トイレについては、指定管理者を設け適正な施設管理を行っています。その他観光施設等も地元住民の理解を得ながら管理し、住民及び観光旅行者が安心安全に利用できる環境を提供しながら、異常等発生した場合は早急な対応に努めている状況です。しかしながら、各施設とも老朽化が進んでおり修繕等の対応が多くなっています。また、観光旅行者の増加による施設に対するニーズも多様化していることから、今後計画的な施設整備や観光旅行者のニーズに沿った対応を行うことが必要となっています。

椎葉村交流施設katerieは令和元年度に建設され、延床面積1820.27㎡で、村が運営を行っています。機能として、図書館をはじめ、ものづくりや生涯学習、子育て支援、交流促進など多様な目的、機能を有し、これから人口減少していき、村民一人一人の担う役割が増加する中で、人口減少に対する取り組みも更に行っていかなければならない状況下に対し、次世代を担う人材の育成や、自由かつ積極的な活性化の取り組みを行うために求められる施設となる事から、施設整備の維持管理を継続的に実施します。

森林体験交流施設については、平成28年度まではそば体験施設として大神館を営業していたが、それ以降は運営者を募集するものの、募集が無く休止状態となっています。経費削減のために、浄化槽及び電気は休止しています。森林体験交流施設の木工芸体験施設については、毎年少しずつ利用はあるものの利用率は低い状況です。

(3) 今後の施設の考え方

点検・診断等の実施方針については、長期的な維持管理コストを縮減していくために点検・診断等の実施により、問題が確認できた場合には状況に応じた修繕計画を策定します。また、点検・診断等の結果により高度の危険性が認められた場合には、利用者の安全確保を行った上で、修繕等の対応策を早急に実施します。

維持管理・修繕・更新等の実施方針については、施設劣化を防止するために、維持管理を継続して取り組みます。点検・診断等を踏まえた建築・改修について優先順位や維持管理方策を検討するなど、効率性や実施効果が最大となるように努めます。

安全確保の実施方針については、定期的な保守点検や職員による目視確認により施設設備等の安全確保を徹底します。また、点検・診断等により施設整備の問題が確認された場合には、管理方法を策定し、修繕の実施や代用設備への更新を行います。

耐震化の実施方針については、全施設新耐震基準により建設されているため、耐震化については問題ない状況です。

長寿命化の実施方針については、大規模改修は行わず、施設の点検・診断等を踏まえた予防保全型の維持管理にて推進します。定期的な点検や維持管理を行うことで施設の長期的な利用を実現します。

統廃合等の推進方針については、椎葉村拠点交流施設katerieについては他の用途施設との統廃合については検討していませんが、その他の施設等については、公共性、費用対効果を十分に考慮した上で、慎重に対応いたします。

大神館として営業していた施設については、令和2年の台風の被害を受け、避難所としての再利用の案も出てきていますが、結論が出ていない状況です。令和2年度で耐用年数も迎えることから、存続について今後検討し令和3年度中には施設の維持管理方針を定めていく予定です。

木工芸体験施設については、少ないながらも利用者がいることから、適切に補修等をいを行い維持管理していくものとします。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	椎葉村物産センター	1991	29	W	24	0	新	新	2019	他
2	ひえつきの里キャンプ場	1989	31	W	17	0	新	新	2018	他
3	矢立高原キャンプ場	1987	33	W	17	0	新	新		
4	仲塔公衆トイレ	1983	37	W	15	0	新	新		
5	十根川駐車場トイレ	1995	25	W	15	0	新	新		
6	十根川神社トイレ	1984	36	W	15	0	新	新		
7	上椎葉観光駐車場トイレ	1998	22	W	15	0	新	新		
8	上椎葉児童公園トイレ	1998	22	W	15	0	新	新		
9	女神像公園トイレ	1995	25	W	15	0	新	新		
10	大久保観光駐車場トイレ	1997	23	W	15	0	新	新		
11	椎葉門トイレ	1997	23	W	15	0	新	新		
12	境谷トイレ	1993	27	W	15	0	新	新		
13	新ひむか「水車がきしむふるさと工場」	1986	34	W	22	0	新	新		
14	化粧の水	2010	10	W	15	5	新	新		
15	しいば土俵	2011	9	W	15	6	新	新	2020	他
16	扇山山小屋	1997	23	W	24	1	新	新	2016	壁
17	松尾大いちょう広場	2018	2	W	15	13	新	新		
18	扇山登山口バイオトイレ	2017	3	W	15	12	新	新		
19	宮交バス車庫トイレ	2017	3	W	15	12	新	新		
20	小崎公衆トイレ	2008	12	W	15	3	新	新		
21	椎葉村交流拠点施設	2019	1	S	34	33	新	新		
22	森林体験交流施設	1995	25	W	24	0	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造: W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数: 耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断: 新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修: 新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

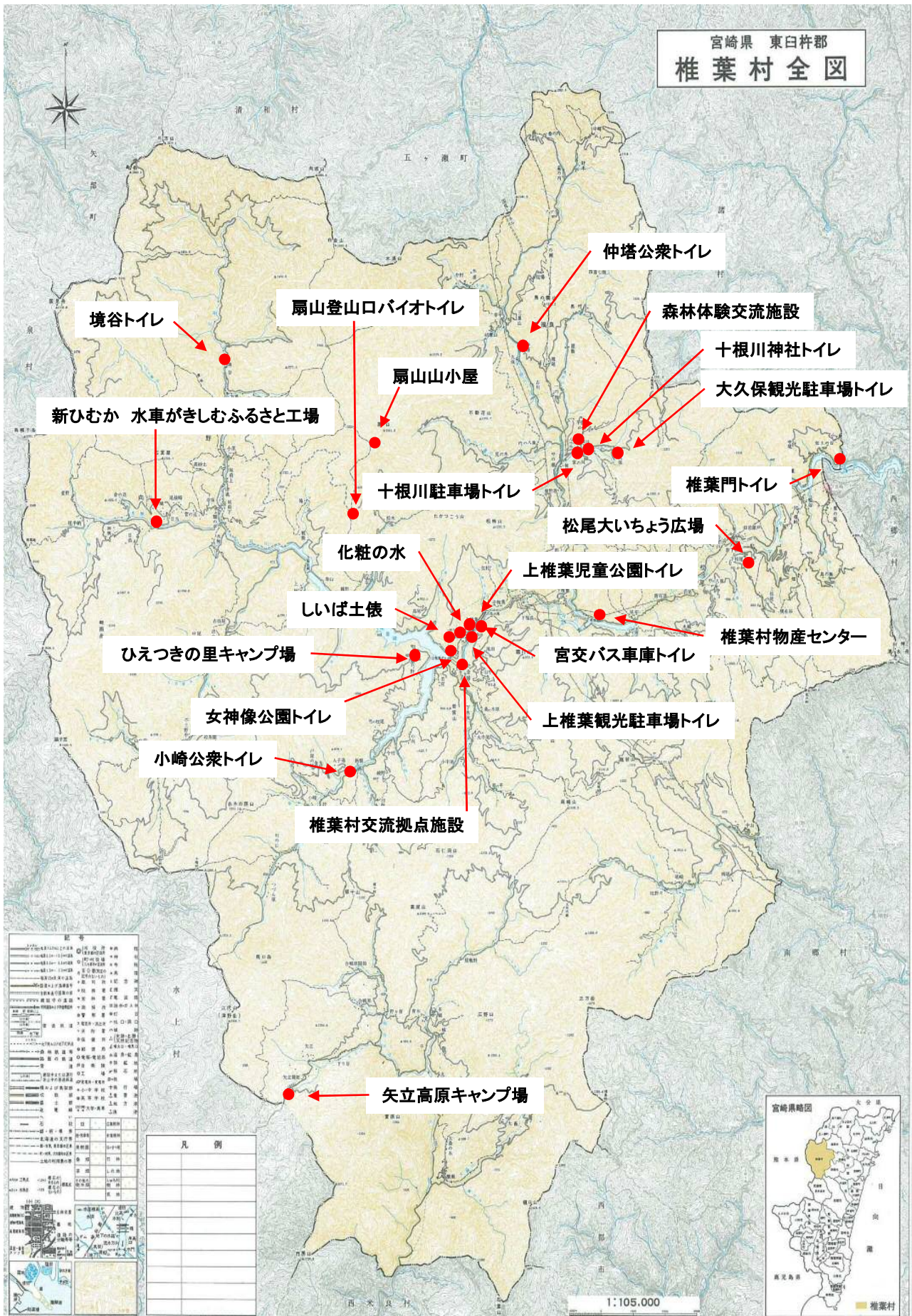
※大規模改修: 屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

(2)利用・運営状況

No.	施設名	総床面積 (㎡)	稼働日数 (日)	年間利用者 数(人)	年間コスト (円)	㎡当たり コスト(円)	1日当たり利 用人数(人)
1	椎葉村物産センター	324	359	22,539	5,006,948	15,454	63
2	ひえつきの里キャンプ場	549	315	148	3,909,934	7,122	1
3	矢立高原キャンプ場	293	204	553	8,717,541	29,753	3
4	仲塔公衆トイレ	4	365	3,000	166,833	41,709	9
5	十根川駐車場トイレ	31	365	4,500	320,429	10,337	13
6	十根川神社トイレ	10	365	2,000	261,526	26,153	6
7	上椎葉観光駐車場トイレ	22	365	25,000	778,030	35,365	69
8	上椎葉児童公園トイレ	37	365	3,000	342,219	9,250	9
9	女神像公園トイレ	39	365	18,000	705,738	18,096	50
10	大久保観光駐車場トイレ	55	365	3,000	586,822	10,670	9
11	椎葉門トイレ	21	365	5,334	411,161	19,580	15
12	境谷トイレ	9	365	500	135,207	15,023	2
13	新ひむか「水車がき しむふるさと工場」	128	168	192	33,287	261	2
14	化粧の水	8	365	1,200	50,396	6,300	4
15	しいば土俵	81	10	222	220,126	2,718	23
16	扇山山小屋	20	365	500	0	0	2
17	松尾大いちょう広場	44	365	3,000	66,650	1,515	9
18	扇山登山口バイオトイレ	7	244	500	0	0	3
19	宮交バス車庫トイレ	3	365	1,500	183,146	61,049	5
20	小崎公衆トイレ	2	365	800	203,369	101,685	3
21	椎葉村交流拠点施設	1,820	0	0	0	0	0
22	森林体験交流施設	403	0	0	68,160	170	0

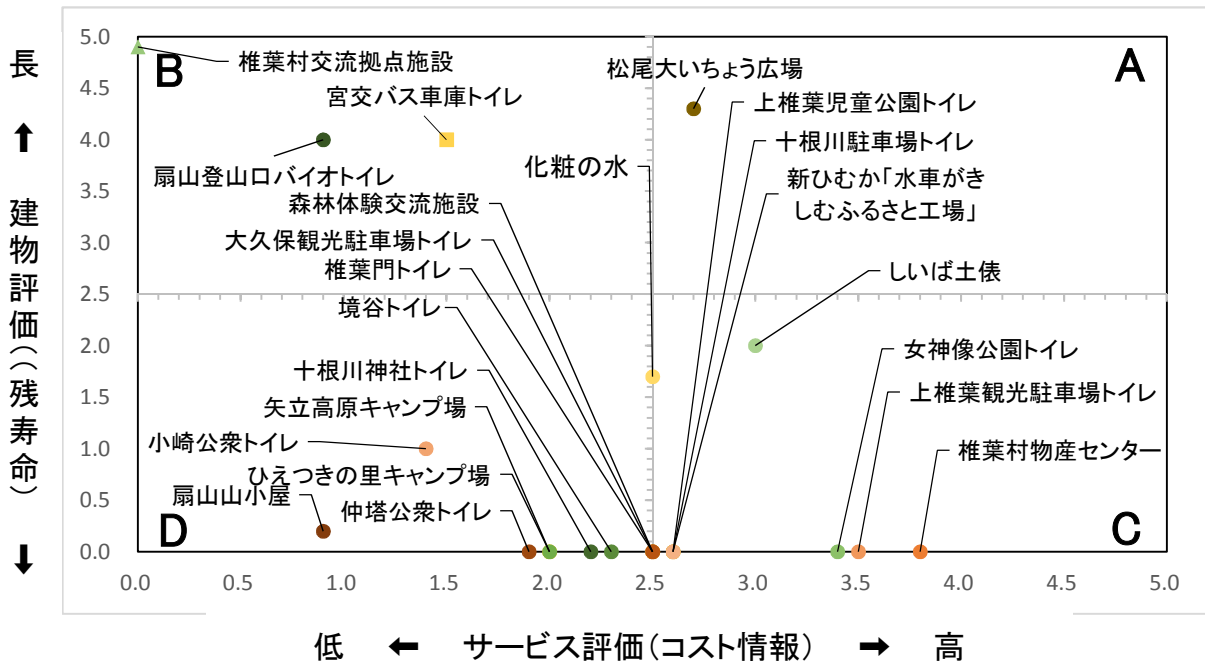
(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たり利用人数

1日当たり利用人数が最も多い施設を5点、最も少ない施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合もしくは0人の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たり利用人数の点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	椎葉村物産センター	耐震については新耐震基準により建築しています。今後も引き続き指定管理者制度を活用し、民間への委託を実施します。大規模な設備投資についても費用対効果を注視しつつ、利用者の増加及び利便性向上に向けて取り組みます。
2	ひえつきの里キャンプ場	耐震については新耐震基準により建築しています。今後も引き続き指定管理者制度を活用し、民間への委託を実施します。大規模な設備投資についても費用対効果を注視しつつ、利用者の増加及び利便性向上に向けて取り組みます。
3	矢立高原キャンプ場	耐震については新耐震基準により建築しています。今後も引き続き指定管理者制度を活用し、民間への委託を実施します。大規模な設備投資についても費用対効果を注視しつつ、利用者の増加及び利便性向上に向けて取り組みます。
4	仲塔公衆トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
5	十根川駐車場トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
6	十根川神社トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
7	上椎葉観光駐車場トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
8	上椎葉児童公園トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
9	女神像公園トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
10	大久保観光駐車場トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
11	椎葉門トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
12	境谷トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
13	新ひむか「水車がきしむふるさと工場」	耐震については新耐震基準により建築しています。施設老朽化及び利用者の減少により今後の施設の在り方・運用について廃止・譲渡も視野に検討を進めます。
14	化粧の水	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
15	しいば土俵	耐震については新耐震基準により建築しています。土俵等、主要設備は屋外設置のため、外構箇所も含めて定期的な点検・補修を実施します。
16	扇山山小屋	耐震については新耐震基準により建築しています。登山需要の増加に伴い、利用者が増加しているため、今後も定期的かつ計画的な点検・補修を実施します。
17	松尾大いちょう広場	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
18	扇山登山口バイオトイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。登山需要の増加に伴い、利用者が増加しているため、今後も定期的かつ計画的な点検・補修を実施します。
19	宮交バス車庫トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
20	小崎公衆トイレ	耐震については新耐震基準により建築しています。老朽化が著しい施設については、改修計画により順次改修を実施。非接触型の設備も導入していきます。
21	椎葉村交流拠点施設	当施設は建設したばかりであるため、当面は適切な点検等と、それに基づく維持管理修繕をすすめ、施設の長寿命化を図っていきます。
22	森林体験交流施設	新耐震基準以降に設置した木造の施設であり、耐用年数を越えているが、体験交流施設については、現在は利用されていないが、避難所として再利用も含め存続の検討を行います。木工芸体験施設については、点検・補修を実施し利用を継続します。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	椎葉村物産センター	平家本陣	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	160	300	300	300	300	300
		製粉施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
2	ひえつきの里キャンプ場	コテージ	対策内容	点検	改修	改修	点検	点検	点検
			対策費用	200	10,000	8,000	200	200	200
		管理棟	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	50	50	50	50	50	50
		便所	対策内容	改修	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	4,000					
身障者便所	対策内容	改修	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用	2,000							
炊事施設	対策内容	点検	点検	点検	改修	点検	点検		
	対策費用				2,000				
休憩所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用								
3	矢立高原キャンプ場	コテージ(5棟)	対策内容	点検	点検	改修	点検	点検	点検
			対策費用	200	200	15,000	200	200	200
		管理棟	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	50	50	50	50	50	50
		炊事施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
対策費用									
休憩所	対策内容	改修	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用	6,715							
シャワー室	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用								
処理場・加工場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用								
4	仲塔公衆トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	10	10	10	10	10	10
5	十根川駐車場トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	60	60	60	60	60	60
6	十根川神社トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	20	20	20	20	20	20
7	上椎葉観光駐車場トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	40	40	40	40	40	40
8	上椎葉児童公園トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	40	40	40	40	40	40

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
9	女神像公園トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	80	80	80	80	80	80
10	大久保観光駐車場トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	40	40	40	40	40	40
11	椎葉門トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	40	40	40	40	40	40
12	境谷トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	20	20	20	20	20	20
13	新ひむか「水車がきしむ ふるさと工場」	集会所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		共同作業所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
14	化粧の水	休憩所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		木製橋梁	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
15	しいば土俵	相撲競技場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
16	扇山山小屋	山小屋	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
17	松尾大いちょう広場	東屋	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
18	扇山登山口バイオトイレ	バイオトイレ	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	10	10	10	10	10	10
19	宮交バス車庫トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	10	10	10	10	10	10
20	小崎公衆トイレ	便所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	20	20	20	20	20	20
21	椎葉村交流拠点施設	交流拠点施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	2,725	2,725	2,725	2,725	2,725	2,725
22	森林体験交流施設	木工体験室	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		事務所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
		休憩施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検

【農業施設】

農林振興課
地域振興課

1. 対象施設

令和2年度末現在の農業施設は20施設で、延べ床面積の合計は21,889㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	桑の木原椎茸生産施設	椎葉村大字下福良225番地2	4,460	1
2	春の平椎茸生産施設	椎葉村大字下福良163番地189	1,584	1
3	不土野上椎茸生産施設	椎葉村大字不土野1482番地	2,901	1
4	坂本椎茸生産施設	椎葉村大字不土野1672番地、1673番地	1,410	1
5	天包椎茸生産施設	椎葉村大字不土野1589番地2	1,066	1
6	唾谷椎茸生産施設	椎葉村大字松尾907番地8	1,018	1
7	栗の尾椎茸生産施設	椎葉村大字松尾907番地37	1,614	1
8	臼杵又椎茸生産施設	椎葉村大字大河内1870番地126	3,638	1
9	竹の枝尾日当椎茸生産施設	椎葉村大字大河内1939番地5	740	1
10	桑の木原農産加工工場	椎葉村大字下福良144番地35	136	1
11	尾八重農産加工施設	椎葉村大字下福良2149番地	122	1
12	柵尾農産加工センター	椎葉村大字大河内234-3	50	1
13	大河内農産加工センター	椎葉村大字大河内677-156	50	1
14	小崎農産加工センター	椎葉村大字大河内1665	50	1
15	家畜管理センター	椎葉村大字下福良509-145	233	1
16	村営飼料供給施設	椎葉村大字大河内1302-810	439	1
17	小崎地区農作業機械格納庫	椎葉村大字大河内1465番地23	98	1
18	尾向地区育苗施設	椎葉村大字不土野710番地34	441	1
19	間柏原ハウス	椎葉村大字下福良319番地186	642	1
20	浅藪ハウス	椎葉村大字不土野1746番地13、1746番地6	1,197	2
合 計			21,889	21

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

宮崎県は全国の乾椎茸生産量第2位であり、本村は県内の乾椎茸生産量第1位です。村内に9箇所ある椎茸生産施設は、安定した生産量の確保や品質の向上に大きく貢献しています。宮崎県乾しいたけ品評会では12回の団体優勝を飾っているが、内7回が椎茸生産施設設置後であり、品質確保に重要な役割を果たしています。

農業施設は、少子高齢化等による担い手不足の解消及び遊休農地の発生防止に重要な役割を果たしています。

村内で稼働している5つの中規模加工施設は、本村の加工品製造に欠かせない設備であり、地場産品の商品を安定した生産量で販売することが、村内の農産振興に大きく貢献しています。また、地域行事や祭事に欠かせない調理品、加工品についても加工施設で製造しており、地域にも欠かせない設備です。

(2) 現状と課題

椎茸生産施設については、新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フララ等の資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を行う必要があります。

農業施設については、新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり、計画期間内は耐用年数の範囲内です。しかし、部分的に老朽化が進んでおり補修が発生する可能性があります。

農産加工施設においては、個人では導入できない加工機械を加工場に設置する事で、村内の加工品製造の生産量の確保や品質管理に大きく貢献しています。一方で、近年は継承者不足や高齢化で稼働率が大幅に減少傾向にあるため、保守点検や補助金を活用した環境整備を行い、加工場の利用率を高め、村内の加工品生産量向上に努めます。

(3) 今後の施設の考え方

椎茸生産施設は、本村の基幹産業である乾しいたけ生産に重要な役割を果たしているため、必要があれば補修を行うなど、施設が長期的に利用できるよう鉄骨の点検を行っていきます。

農業施設は、施設の確認等を行いながら、必要があれば順次補修等を実施していきます。

村内で稼働している5つの中規模加工施設は、本村の加工品製造に欠かせない施設であり、農産振興に重要な役割を果たしています。そのため、必要があれば補修を行うなど、施設が長期的に利用できるよう今後も点検を行っていきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	桑の木原椎茸生産施設	2006	14	S	14	0	新	新		
2	春の平椎茸生産施設	2006	14	S	14	0	新	新		
3	不土野上椎茸生産施設	2002	18	S	14	0	新	新		
4	坂本椎茸生産施設	2003	17	S	14	0	新	新		
5	天包椎茸生産施設	2003	17	S	14	0	新	新		
6	唾谷椎茸生産施設	2000	20	S	14	0	新	新		
7	栗の尾椎茸生産施設	2001	19	S	14	0	新	新		
8	臼杵又椎茸生産施設	2002	18	S	14	0	新	新		
9	竹の枝尾日当椎茸生産施設	2002	18	S	14	0	新	新		
10	桑の木原農産加工工場	1986	34	S	31	0	新	新		
11	尾八重農産加工施設	1998	22	W	15	0	新	新		
12	柵尾農産加工センター	1992	28	W	15	0	新	新		
13	大河内農産加工センター	1987	33	W	15	0	新	新		
14	小崎農産加工センター	1987	33	W	15	0	新	新		
15	家畜管理センター	2001	19	S	31	12	新	新		
16	村宮飼料供給施設	1980	40	W	15	0	未	不		
17	小崎地区農作業機械格納庫	2000	20	S	31	11	新	新		
18	尾向地区育苗施設	2009	11	S	31	20	新	新		
19	間柏原ハウス	2018	2	S	14	12	新	新		
20	浅藪ハウス	2020	0	S	14	14	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

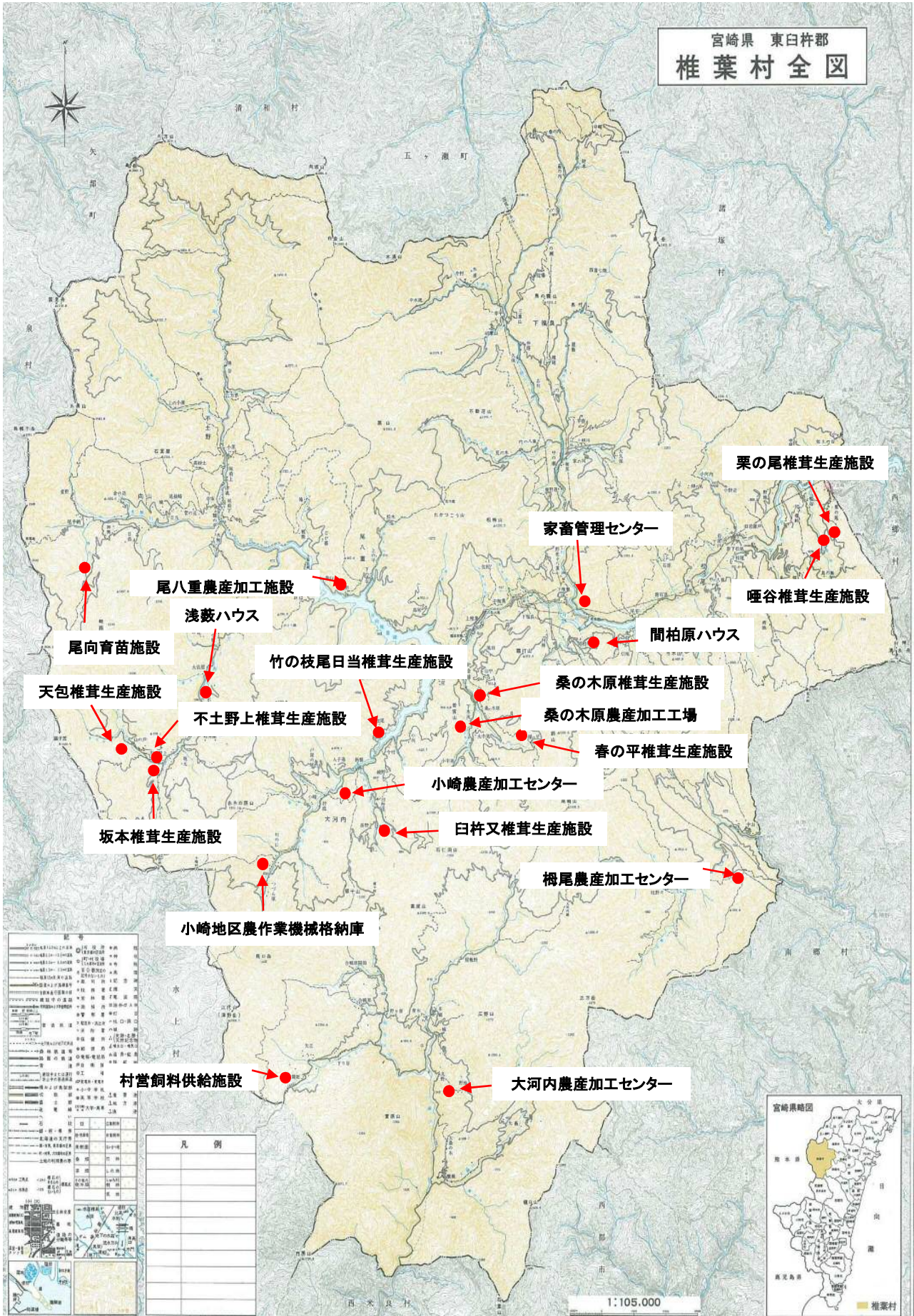
※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

(2)利用・運営状況

No.	施設名	総床面積 (㎡)	稼働日数 (日)	年間利用者 数(人)	年間コスト (円)	㎡当たり コスト(円)	1日当たり コスト(円)
1	桑の木原椎茸生産施設	4,460	365	2	101,420	23	278
2	春の平椎茸生産施設	1,584	365	1	39,600	25	109
3	不土野上椎茸生産施設	2,901	365	1	64,365	23	177
4	坂本椎茸生産施設	1,410	365	1	32,170	23	89
5	天包椎茸生産施設	1,066	365	1	25,344	24	70
6	唾谷椎茸生産施設	1,018	365	1	21,985	22	61
7	栗の尾椎茸生産施設	1,614	365	1	49,845	31	137
8	臼杵又椎茸生産施設	3,638	365	2	81,717	23	224
9	竹の枝尾日当椎茸生産施設	740	365	1	18,475	25	51
10	桑の木原農産加工工場	136	27	71	484,285	3,561	17,937
11	尾八重農産加工施設	122	84	362	377,454	3,094	4,494
12	梅尾農産加工センター	50	70	365	121,765	2,436	1,740
13	大河内農産加工センター	50	45	71	119,490	2,390	2,656
14	小崎農産加工センター	50	8	19	114,049	2,281	14,257
15	家畜管理センター	233	15	432	22,923	99	1,529
16	村営飼料供給施設	439	0	0	0	0	0
17	小崎地区農作業機械格納庫	98	245	13	0	0	0
18	尾向地区育苗施設	441	112	2	62,447	142	558
19	間柏原ハウス	642	122	1	100,800	158	827
20	浅藪ハウス	1,197	0	0	0	0	0

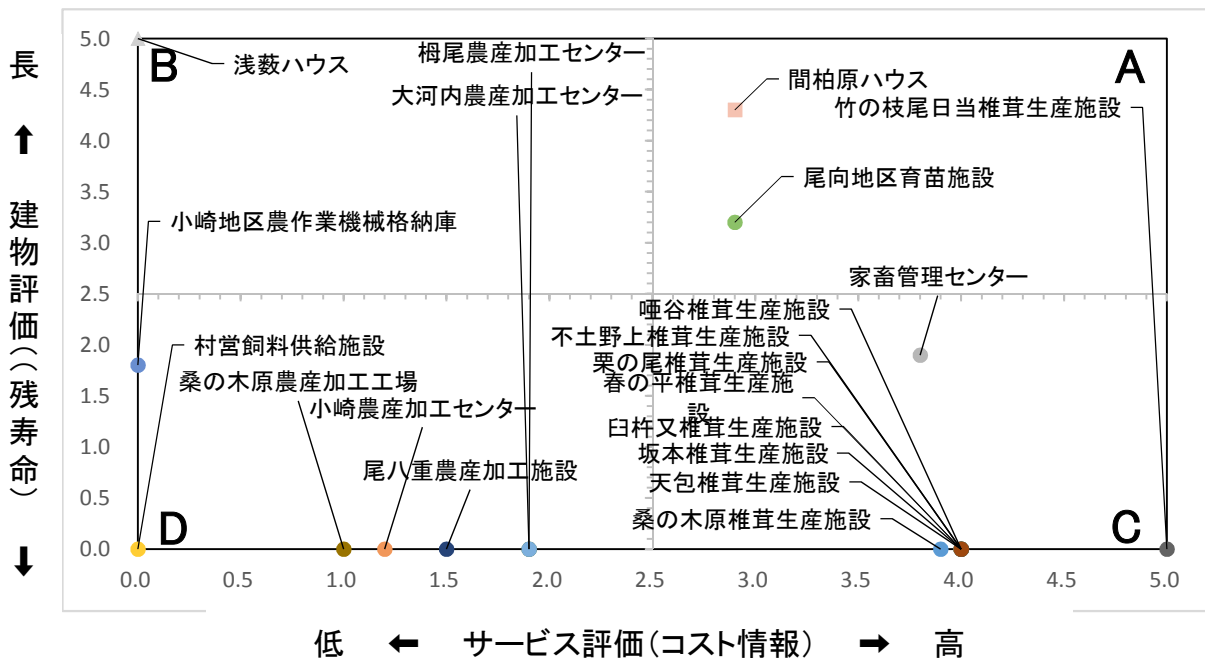
(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たりコスト

1日当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たりのコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	桑の木原椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
2	春の平椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
3	不土野上椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
4	坂本椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
5	天包椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
6	唾谷椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
7	栗の尾椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
8	臼杵又椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
9	竹の枝尾日当椎茸生産施設	新耐震基準以降に設置した施設であり、鉄骨については当分の使用が可能と思われます。フラ等資材が老朽化しているため、県単補助事業等を活用しながら資材等については年次計画で改修を計画しています。
10	桑の木原農産加工工場	新耐震基準以降に設置した施設です。今後も業務委託による保守点検を実施し効率的な活用、利用者の増加に努めます。
11	尾八重農産加工施設	新耐震基準以降に設置した施設です。今後も業務委託による保守点検を実施し効率的な活用、利用者の増加に努めます。
12	梶尾農産加工センター	新耐震基準以降に設置した施設です。今後も業務委託による保守点検を実施し効率的な活用、利用者の増加に努めます。
13	大河内農産加工センター	新耐震基準以降に設置した施設です。今後も業務委託による保守点検を実施し効率的な活用、利用者の増加に努めます。
14	小崎農産加工センター	新耐震基準以降に設置した施設です。今後も業務委託による保守点検を実施し効率的な活用、利用者の増加に努めます。
15	家畜管理センター	新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり計画期間内は耐用年数の範囲内です。老朽化部分の状況を確認しながら順次補修を実施していきます。
16	村宮飼料供給施設	旧耐震基準で設置した施設であり、部分的に老朽化が進んでいるが、現在は利用されておらず、施設の活用状況を鑑み、補修を実施していきます。
17	小崎地区農作業機械格納庫	新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり計画期間内は耐用年数の範囲内であるが、部分的に老朽化が進んでおり状況を確認しながら順次補修を実施していきます。
18	尾向地区育苗施設	新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり計画期間内は耐用年数の範囲内であるが、部分的に老朽化が進んでおり状況を確認しながら順次補修を実施していきます。
19	間柏原ハウス	新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり計画期間内は耐用年数の範囲内です。一部改修済みであるが、老朽化部分の状況を確認しながら順次補修を実施していきます。
20	浅藪ハウス	新耐震基準以降に設置した鉄骨造りの施設であり計画期間内は耐用年数の範囲内です。一部改修済みであるが、老朽化部分の状況を確認しながら順次補修を実施していきます。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	桑の木原椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
2	春の平椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
3	不土野上椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		倉庫・物置	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
対策費用									
4	坂本椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		暴風ネット	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
対策費用									
5	天包椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
6	唾谷椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
暴風ネット	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用								
7	栗の尾椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
8	白杵又椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
暴風ネット	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用								
倉庫・物置	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検		
	対策費用								
9	竹の枝尾日当椎茸生産施設	人工ほた場	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用						
10	桑の木原農産加工工場	加工施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用	53	53	53	53	53	
11	尾八重農産加工施設	加工施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用	53	53	53	53	53	
12	柁尾農産加工センター	加工施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用	53	53	53	53	53	
13	大河内農産加工センター	加工施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用	53	53	53	53	53	
14	小崎農産加工センター	加工施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用	53	53	53	53	53	
15	家畜管理センター	畜舎	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用						
		事務所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用						
16	村営飼料供給施設	共同作業所	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用						
17	小崎地区農作業機械格納庫	倉庫	対策内容	点検	点検	点検	点検	改修	
			対策費用					1,000	
18	尾向地区育苗施設	ビニールハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	改修	
			対策費用					200	
19	間柏原ハウス	ハウス	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	
			対策費用					500	
20	浅藪ハウス	ハウス	対策内容	新設	新設	新設	新設	新設	
			対策費用	1,652	1,652	1,652	1,652	1,652	

【水道施設】

建設課

1. 対象施設

令和2年度末現在の水道施設は2施設で、延べ床面積の合計は336㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	上椎葉浄水場	椎葉村大字下福良144-21	298	1
2	岩屋戸浄水場	椎葉村大字松尾396-15	38	1
合 計			336	2

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

水道施設は、上椎葉地区と松尾地区において安全安心な水道水を安定的に供給するための施設です。上椎葉浄水場は沈殿池と膜ろ過機を組み合わせた施設、岩屋戸浄水場は前処理器と急速濾過機を組み合わせた施設です。

(2) 現状と課題

安全でおいしい水の安定供給を確保するため、施設の定期的なメンテナンスが非常に重要です。毎年保守点検を実施しながら更新及び修繕をおこない施設の長寿命化を図っています。上椎葉浄水場については、竣工から老朽化が進んでおり、また、水道機器等についても対応年数が経過しています。そのため、更新や修繕を計画的におこなっていく必要があります。

(3) 今後の施設の考え方

水道は村民の生活に直結する重要なインフラであるため、安定的な水の供給を図るために定期的な点検や・診断を実施します。老朽化に伴う施設更新や修繕は計画的に実施し、トータルコストの縮減に努めていきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	上椎葉浄水場	1999	21	SRC	31	10	新	新		
2	岩屋戸浄水場	2014	6	RC	50	44	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造: W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数: 耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断: 新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修: 新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修: 屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

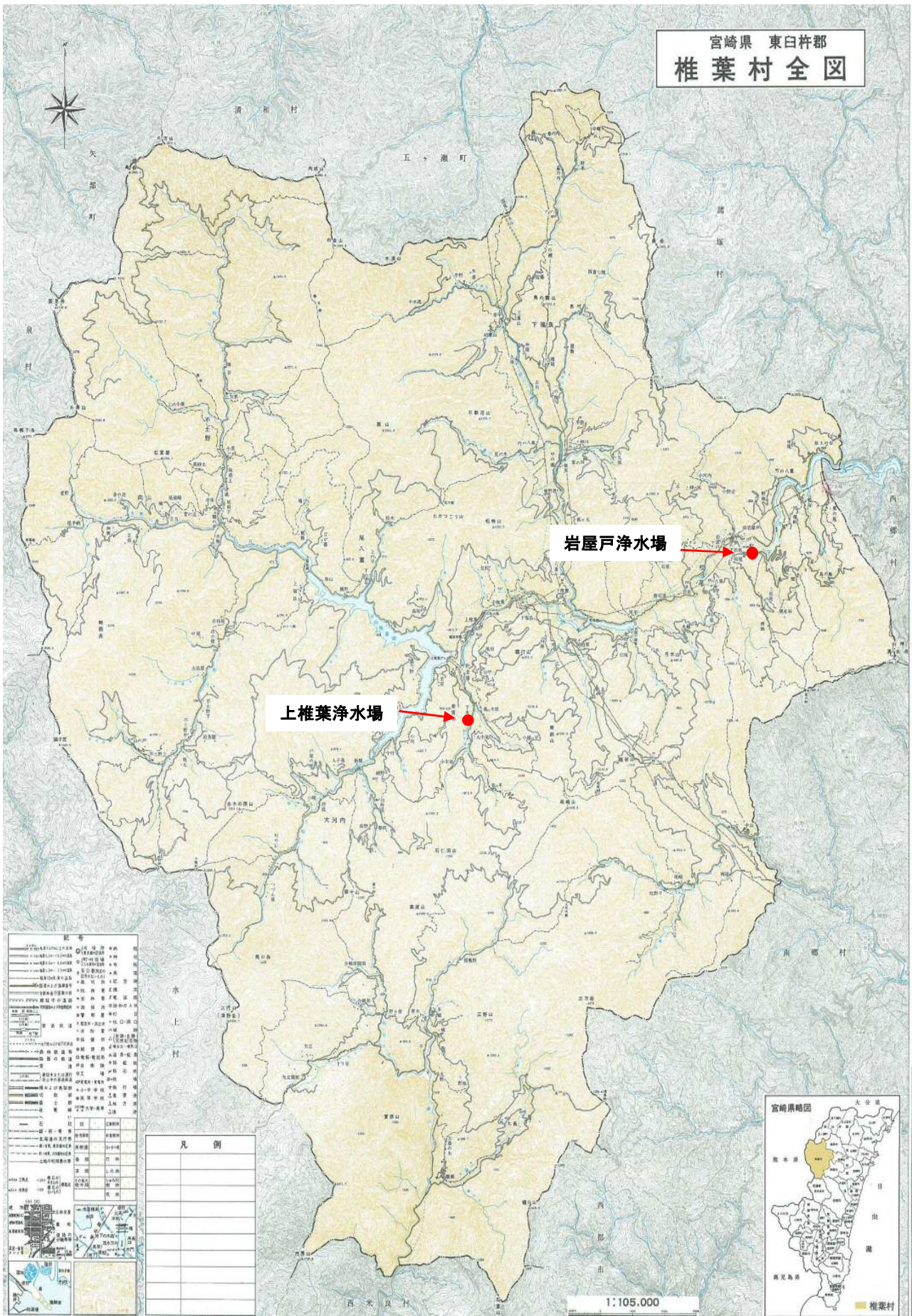
(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1日当たりコスト(円)
1	上椎葉浄水場	298	365	4	11,337,298	38,045	31,062
2	岩屋戸浄水場	38	365	4	769,197	20,243	2,108

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

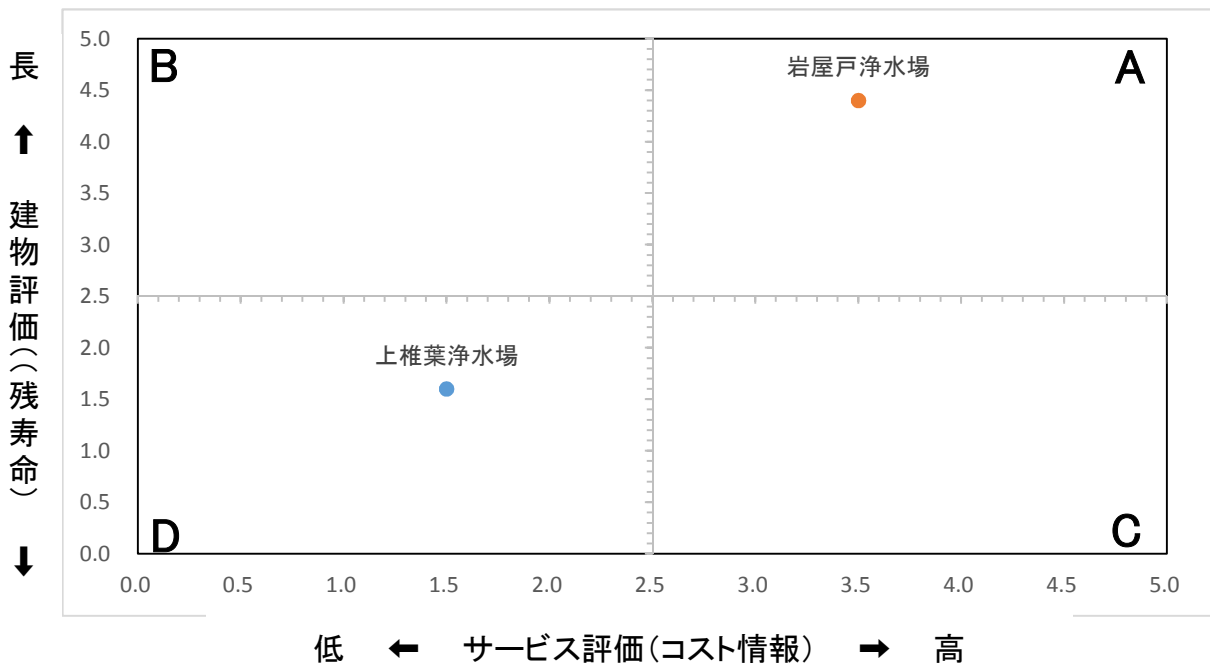
(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度) 建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たりコスト

1日当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たりのコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	上椎葉浄水場	竣工から21年が経過しており機器の更新時期を踏まえ、計画的に更新及び修繕を行い延命化に努めていきます。また、スペックダウンも視野に入れ適切な維持管理を検討していきます。
2	岩屋戸浄水場	定期的に点検を行い、適切な維持管理に努めていきます。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	上椎葉浄水場	水道施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
2	岩屋戸浄水場	管理棟	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ポンプ室	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		配水池	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		浄水場機器	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	800	800	800	800	800	800
		ポンプ設備	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用						
		ろ過器	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	440	440	440	440	440	440

【発電所施設】

建設課

1. 対象施設

令和2年度末現在の発電所施設は1施設で、延べ床面積の合計は193㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	間柏原発電所	椎葉村大字下福良319-109	193	1
合 計			193	1

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

椎葉村間柏原地区にある村地谷川及び越後谷川の流水を、自然再生可能資源エネルギーとして有効活用する小水力発電施設です。

(2) 現状と課題

昭和29年に建設され、平成27年に更新工事を完了しています。管理手法としては、ダム主任管理技術者と電気主任技術者を専任しており、定期的な巡回や設備運転点検を実施しています。また、年度ごとに、専属の保守管理業者に委託し、発電機の定期点検を実施しており、令和2年には、更新工事から5年節目となるため中規模的設備点検を実施し、発電機の安全管理に取り組んだところ
です。

令和7年度には、10年節目の大規模な点検を実施するため、オーバーホール等に備えていく必要があります。

また、水圧鉄管や導水路などの老朽化も考えられるので、定期点検時に確実に把握する必要があります。

(3) 今後の施設の考え方

現状、安定した運営ができているため、怠ることなく引き続き円滑な管理運営に努めていきます。

また、上記記述のとおり、今後も安定した発電所運営を実施するため、施設設備等の定期的なメンテナンスを行っていくとともに、突発的な災害や機械故障等にも速やかに対応できるよう保守業者間で密な連絡体制を取っていきます。

10年節目の大規模点検を実施するにあたり、器具機械点検を確実にを行い、スムーズな点検作業が可能となるよう努めていきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	間柏原発電所	2014	6	SRC	38	32	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造: W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数: 耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断: 新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修: 新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修: 屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

(2) 利用・運営状況

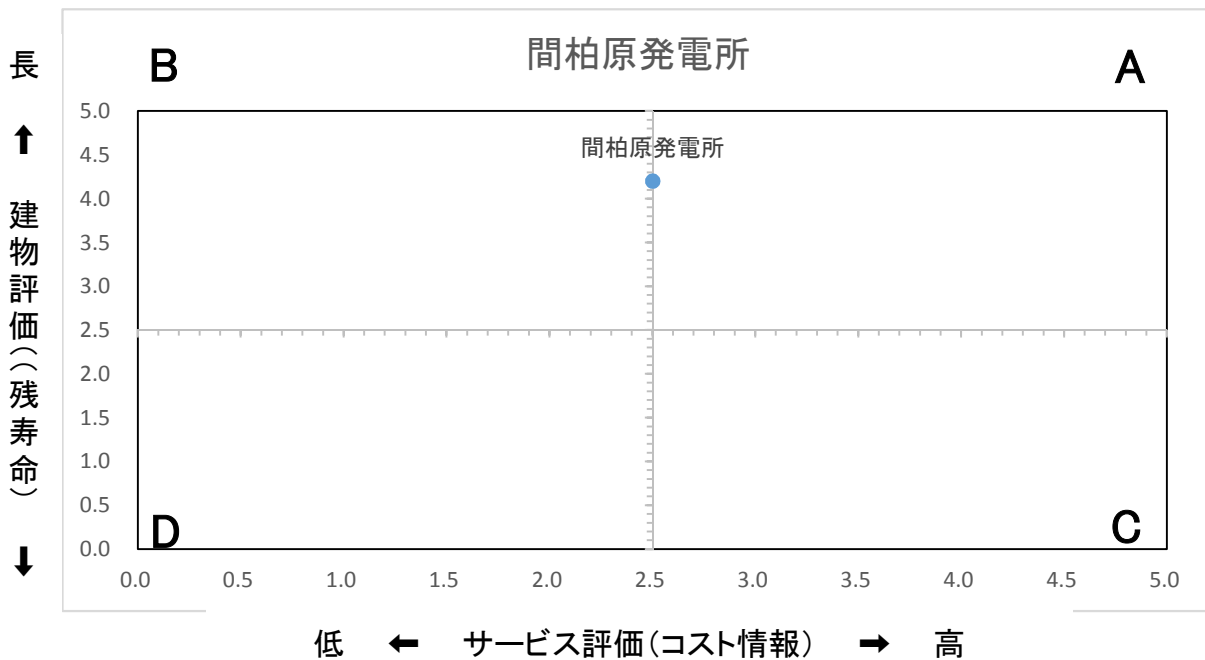
No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1日当たりコスト(円)
1	間柏原発電所	193	365	365	88,574,937	458,938	242,672

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

〈計算式〉

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たりコスト

1日当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たりのコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	間柏原発電所	安定した売電活動を継続していく管理運営を実施します。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	間柏原発電所	機械室	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	3,271	3,300	3,300	3,300	120,000	3,300
		事務所・ 管理施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
		外構付帯設備	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	5,215	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		倉庫	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	0	0	0	0	0	0

【通信管理施設】

地域振興課

1. 対象施設

令和2年度末現在の通信管理施設は17施設で、延べ床面積の合計は93㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	椎葉村地上デジタル放送センター	椎葉村大字下福良1777番地	72	1
2	椎葉村地上デジタル放送サブセンター	椎葉村大字大河内708番地93	21	1
3	尾八重携帯電話通信施設	椎葉村大字下福良2412-3	0	1
4	古枝尾携帯電話通信施設	椎葉村大字不土野1790-4、13	0	1
5	尾向携帯電話通信施設(寺床)	椎葉村大字不土野360-33	0	1
6	尾向携帯電話通信施設(菅の迫)	椎葉村大字不土野442-26	0	1
7	不土野携帯電話通信施設	椎葉村大字不土野1689-55	0	1
8	松尾携帯電話通信施設	椎葉村大字松尾352-82	0	1
9	大河内携帯電話通信施設	椎葉村大字大河内708-166	0	1
10	中山携帯電話通信施設	椎葉村大字大河内173-194	0	1
11	柵尾携帯電話通信施設	椎葉村大字大河内186-124	0	1
12	大藪携帯電話通信施設	椎葉村大字大河内500-131	0	1
13	横瀬携帯電話通信施設	椎葉村大字大河内570-3	0	1
14	椎葉中崎局携帯電話通信施設	椎葉村大字下福良1302	0	1
15	桑の内局携帯電話通信施設	椎葉村大字下福良1257	0	1
16	椎葉ツヅラ局携帯電話通信施設	椎葉村大字下福良1320	0	1
17	椎葉財木局携帯電話通信施設	椎葉村大字下福良1259	0	1
合 計			93	17

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

椎葉村地上デジタル放送センター及びサブセンターは、村内全世帯を光ファイバケーブルで接続し、通信用と放送用のセンター装置を経由し、IP告知放送・高速インターネット・村内無料電話・地上デジタル放送の再放送・AM/FMラジオ放送等のサービスを村民の皆様へ提供しています。

また、村内携帯電話通信施設は、通信キャリア(docomo、KDDI、SoftBank)との共同施設であり、利用者サービスのため、電波を提供しています。

(2) 現状と課題

椎葉村地上デジタル放送センター、サブセンター及び携帯電話通信施設は、耐震及び鉄筋構造物であり、緊急的な修繕以外は、施設整備の維持管理を継続的に実施します。

(3) 今後の施設の考え方

■点検・診断等の実施方針について

長期的な維持管理コストを縮減していくために点検・診断等の実施により、問題が確認できた場合には状況に応じた修繕計画を策定します。

また、点検・診断等の結果により高度の危険性が認められた場合には、安全確保を行った上で、修繕等の対応策を早急に実施します。

■維持管理・修繕・更新等の実施方針について

施設劣化を防止するために、維持管理を継続して取り組みます。点検・診断等を踏まえた建築・改修について優先順位や維持管理方策を検討するなど、効率性や実施効果が最大となるように努めます。

■安全確保の実施方針について

定期的な保守点検や職員による目視確認により施設設備等の安全確保を徹底します。また、点検・診断等により施設整備の問題が確認された場合には、管理方法を策定し、修繕の実施や代用設備への更新を行います。

■耐震化の実施方針について

全施設新耐震基準により建設されているため、耐震化については問題ない状況です。

■長寿命化の実施方針について

大規模改修は行わず、施設の点検・診断等を踏まえた予防保全型の維持管理にて推進します。定期的な点検や維持管理を行うことで施設の長期的な利用を実現します。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	椎葉村地上デジタル放送センター	2009	11	S	38	27	新	新		
2	椎葉村地上デジタル放送サブセンター	2009	11	S	10	0	新	新		
3	尾八重携帯電話通信施設	2009	11	S	40	29	新	新		
4	古枝尾携帯電話通信施設	2011	9	S	40	31	新	新		
5	尾向携帯電話通信施設(寺床)	2002	18	RC	42	24	新	新		
6	尾向携帯電話通信施設(菅の迫)	2002	18	RC	42	24	新	新		
7	不土野携帯電話通信施設	2005	15	RC	42	27	新	新		
8	松尾携帯電話通信施設	1999	21	RC	42	21	新	新		
9	大河内携帯電話通信施設	2002	18	RC	42	24	新	新		
10	中山携帯電話通信施設	2010	10	RC	42	32	新	新		
11	拇尾携帯電話通信施設	2010	10	RC	42	32	新	新		
12	大藪携帯電話通信施設	2011	9	RC	40	31	新	新		
13	横瀬携帯電話通信施設	2011	9	RC	40	31	新	新		
14	椎葉中崎局携帯電話通信施設	2016	4	RC	40	36	新	新		
15	桑の内局携帯電話通信施設	2016	4	RC	40	36	新	新		
16	椎葉ツヅラ局携帯電話通信施設	2016	4	RC	40	36	新	新		
17	椎葉財木局携帯電話通信施設	2016	4	RC	40	36	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

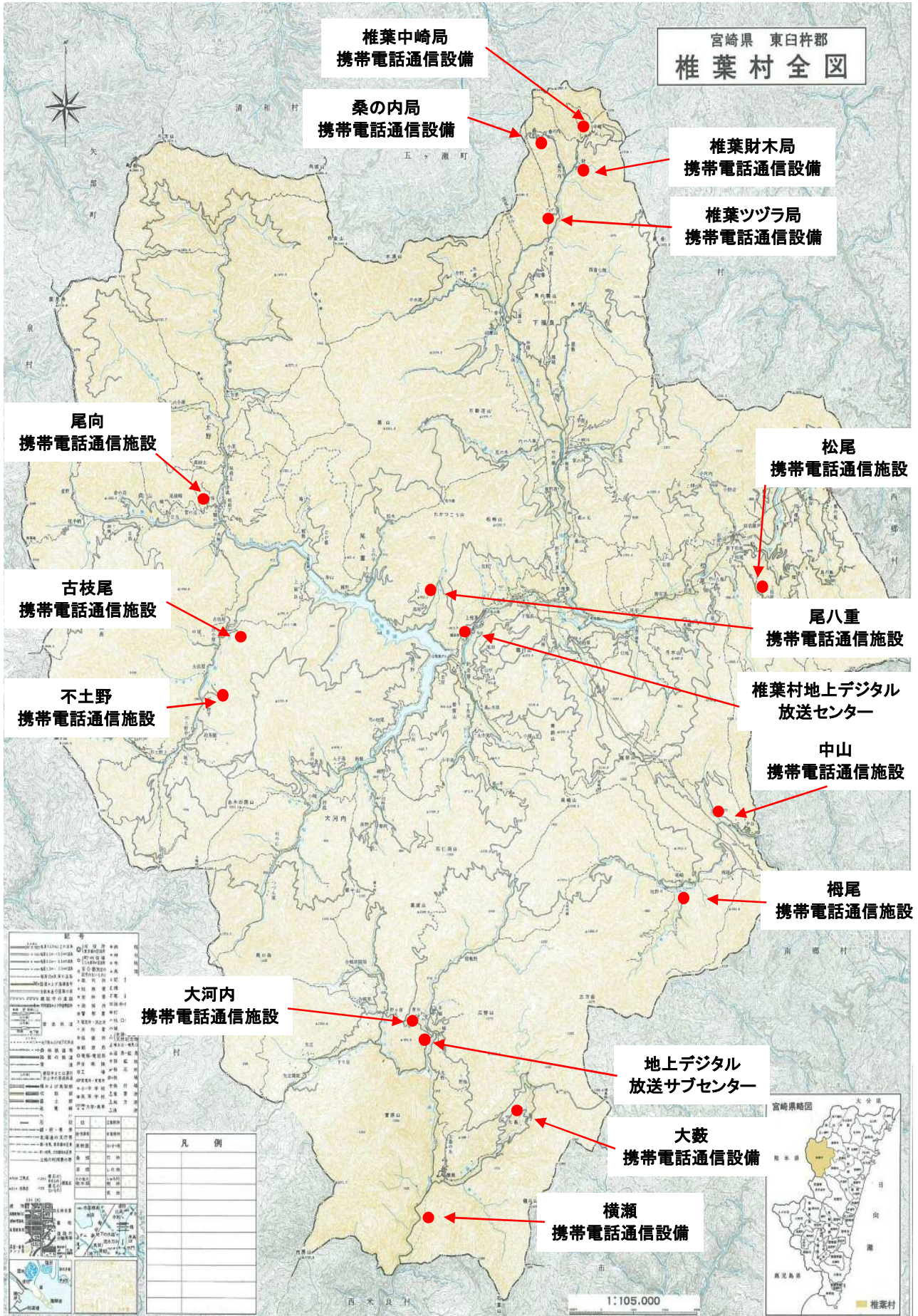
(2)利用・運営状況

No.	施設名	総床面積 (㎡)	稼働日数 (日)	年間利用者 数(人)	年間コスト (円)	㎡当たり コスト(円)	1日当たり コスト(円)
1	椎葉村地上デジタル放送センター	72	365	600	0	0	0
2	椎葉村地上デジタル放送サブセンター	21	365	20	78,000	3,715	3,900
3	尾八重携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
4	古枝尾携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
5	尾向携帯電話通信施設(寺床)	0	365	0	0	0	0
6	尾向携帯電話通信施設(菅の迫)	0	365	0	0	0	0
7	不土野携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
8	松尾携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
9	大河内携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
10	中山携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
11	榎尾携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
12	大藪携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
13	横瀬携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
14	椎葉中崎局携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
15	桑の内局携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
16	椎葉ソゾラ局携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0
17	椎葉財木局携帯電話通信施設	0	365	0	0	0	0

(注)稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

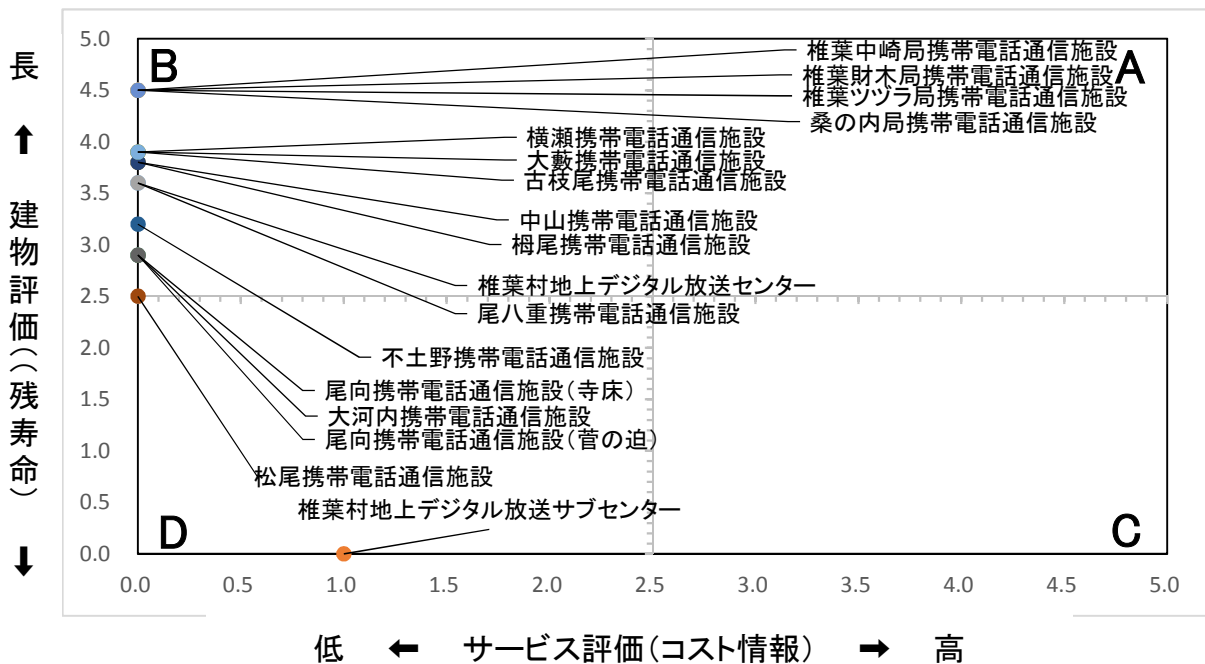
(注)年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点数を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たりコスト

1日当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たりのコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	椎葉村地上デジタル放送センター	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
2	椎葉村地上デジタル放送サブセンター	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
3	尾八重携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
4	古枝尾携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
5	尾向携帯電話通信施設(寺床)	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
6	尾向携帯電話通信施設(菅の迫)	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
7	不土野携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
8	松尾携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
9	大河内携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
10	中山携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
11	梶尾携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
12	大藪携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
13	横瀬携帯電話通信施設	耐震については新耐震基準により建築しています。定期的な点検・修繕を実施し、計画的に設備更新を実施します。
14	椎葉中崎局携帯電話通信施設	当施設は建設したばかりであるため、当面は適切な点検等と、それに基づく維持管理修繕をすすめ、施設の長寿命化を図っていきます。
15	桑の内局携帯電話通信施設	当施設は建設したばかりであるため、当面は適切な点検等と、それに基づく維持管理修繕をすすめ、施設の長寿命化を図っていきます。
16	椎葉ツヅラ局携帯電話通信施設	当施設は建設したばかりであるため、当面は適切な点検等と、それに基づく維持管理修繕をすすめ、施設の長寿命化を図っていきます。
17	椎葉財木局携帯電話通信施設	当施設は建設したばかりであるため、当面は適切な点検等と、それに基づく維持管理修繕をすすめ、施設の長寿命化を図っていきます。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	椎葉村地上デジタル放送センター	放送センター	対策内容 対策費用	点検	点検	診断 200	点検	点検	点検
2	椎葉村地上デジタル放送サブセンター	サブセンター	対策内容 対策費用	点検	点検	診断 200	点検	点検	点検
3	尾八重携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
4	古枝尾携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
5	尾向携帯電話通信施設(寺床)	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
6	尾向携帯電話通信施設(菅の迫)	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
7	不土野携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
8	松尾携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
9	大河内携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
10	中山携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
11	梅尾携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
12	大藪携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
13	横瀬携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	診断 200	点検	点検
14	椎葉中崎局携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	診断 200	点検
15	桑の内局携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	診断 200	点検
16	椎葉ツヅラ局携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	診断 200	点検
17	椎葉財木局携帯電話通信施設	携帯電話施設	対策内容 対策費用	点検	点検	点検	点検	診断 200	点検

【衛生管理施設】

税務住民課

1. 対象施設

令和2年度末現在の衛生管理施設は2施設で、延べ床面積の合計は600㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	椎葉村クリーンセンター	椎葉村大字下福良697番地7号、 697番地22号	480	1
2	夜狩内し尿処理施設	椎葉村大字下福良476番地26号	120	1
合 計			600	2

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

一般廃棄物収集及びし尿処理の中継施設です。

(2) 現状と課題

クリーンセンターは村内から分別収集されたゴミの一時仮置き場として、通常はごみ収集委託業者のみの利用となっています。また、し尿処理施設については平成26年度に更新したことにより効率よく機能を果たしています。

(3) 今後の施設の考え方

クリーンセンターについては委託業者に施設の点検や診断を実施し、必要に応じて対策を行います。また、し尿処理施設についても長期的に利用できるよう適切な維持管理に努めます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	椎葉村クリーンセンター	1996	24	S	31	7	新	新		
2	夜狩内し尿処理施設	2015	5	CB	34	29	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

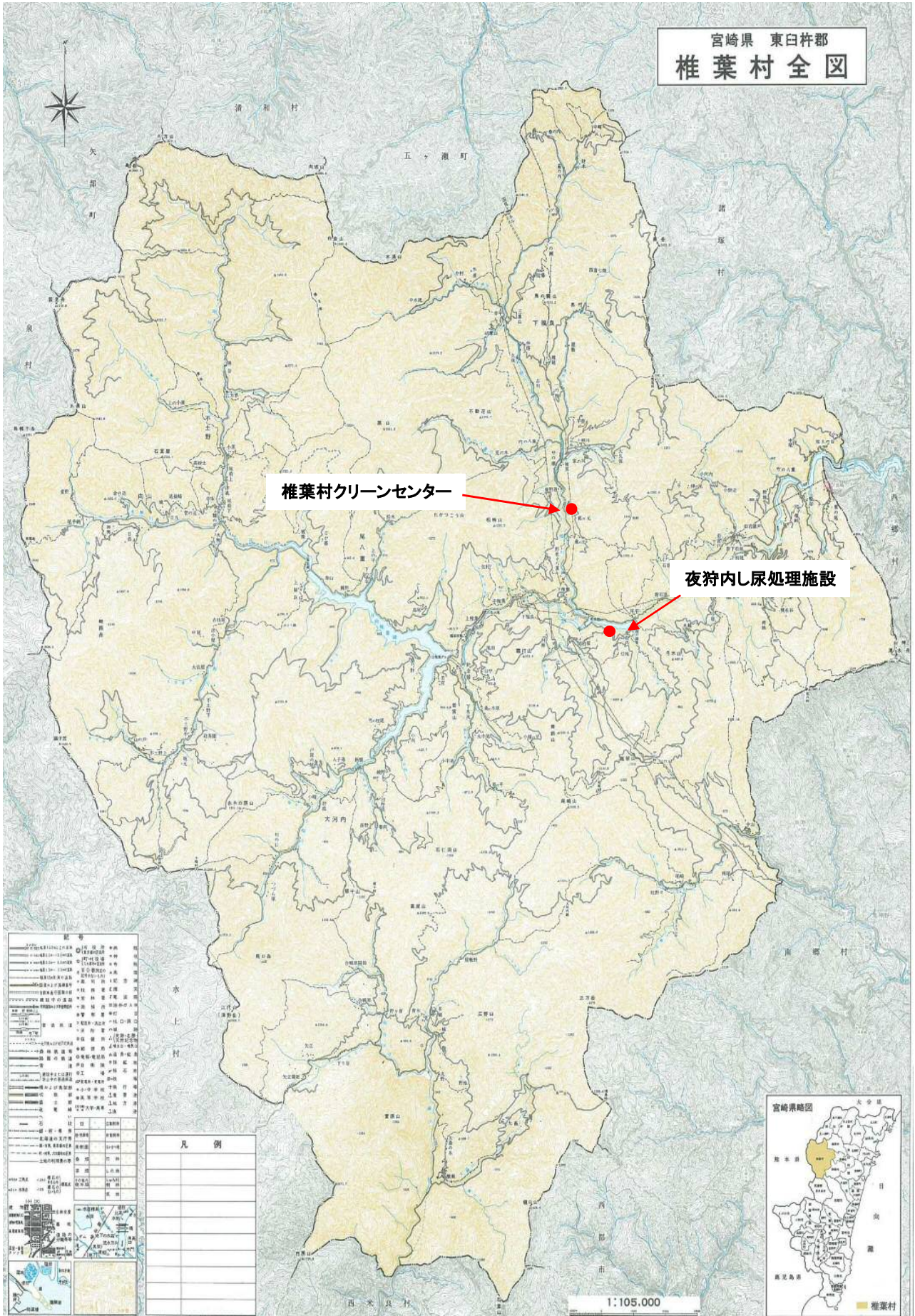
(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1日当たりコスト(円)
1	椎葉村クリーンセンター	480	247	8	26,400	55	3,300
2	夜狩内し尿処理施設	120	365	8	0	0	0

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

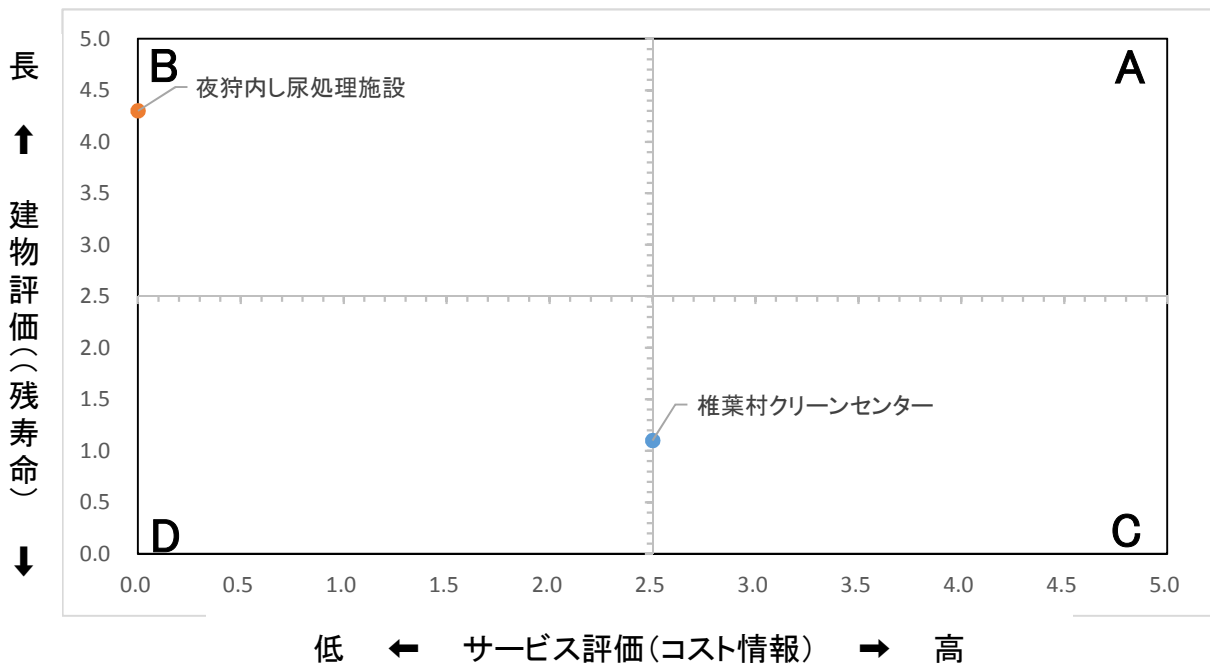
(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

5. 施設配置状況



6. ポジショニング分析(施設評価)結果

各施設の施設性能(ハード面)と利用・運営状況(ソフト面)の重要な2つの指標について、数値化し、施設の特徴や傾向を4つの区分(A、B、C、D)に分けて表したものです。



区分	区分の考え方
A	施設性能、利用・運営状況が良い施設
B	施設性能は良いが、利用・運営状況が低い施設
C	施設性能は劣っているが、利用・運営状況が高い施設
D	施設性能、利用・運営状況が低い施設

【施設評価の考え方】

縦軸: 建物評価の点数

○残寿命年数

施設の残寿命年数を計算し、建物の評価点を出す(5段階評価で5点満点)。マイナス評価の場合は、0点とする。

<計算式>

耐用年数 - (基準年度(2019年度) - 建築年度) = 残寿命年数

(残寿命年数 / 耐用年数) × 5点 = 残寿命年数の点数

例) 平成4年度(1992年度)建築された、鉄筋コンクリートの建物の場合

50(耐用年数) - (2019 - 1992) = 23 23(残寿命年数) / 50(耐用年数) × 5点 = 2.3点(残寿命年数の点数)

横軸: サービス評価の点数

○㎡当たりコスト

㎡当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

○1日当たりコスト

1日当たりコストが最も小さい施設を5点、最も大きい施設を1点とし、その他の点数は数値に応じて比例配分(コスト平均値からの偏差値)する。(ただし、同分類中の施設が3施設以内の場合は全て比例配分とする。)不明の場合は0点とする。

サービス評価の点数 = (㎡当たりのコストの点数 + 1日当たりのコストの点数) / 2

※過去3年間(H29~R1年度)の平均により算出

7. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	椎葉村クリーンセンター	センター本来の業務は広域連合へ統合されているが、現状のとおり、一般廃棄物の中継施設として委託業者による点検・診断等、長寿命化対策を行いながら管理します。
2	夜狩内し尿処理施設	引き続きし尿処理中継施設として長期的に利用できるよう管理します。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	椎葉村クリーンセンター	塵芥処理施設	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	378	500	500	500	500	500
2	夜狩内し尿処理施設	倉庫	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	0	0	0	0	0	0
		タンク	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	0	0	0	0	0	0

【病院施設】

椎葉村国民健康保険病院

1. 対象施設

令和2年度末現在の病院施設は3施設で、延べ床面積の合計は2,485㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	椎葉村国民健康保険病院	椎葉村大字下福良1747番地5	2,263	1
2	医師住宅	椎葉村大字下福良1785番地	107	1
3	研修医住宅	椎葉村大字下福良1747番地5	115	1
合 計			2,485	3

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

椎葉村で唯一の病院であり、通常の診療以外にも救急医療、健診や予防接種など幅広い業務を担っています。このようなことから、宮崎県のへき地医療拠点病院にも指定されており、現在の医療環境を今後も継続させていく必要があります。

(2) 現状と課題

現在の病院施設は、平成7年に新築移転して以降、25年以上経過しています。施設の一部に経年劣化の箇所が確認されているため、適時、改修や設備更新を行いながら施設の適正な維持管理に努めています。耐震等は問題ないので、当面の大規模改修は必要ないが、各種法改正に伴う設備更新のほか、新たな感染症に対応した医療安全管理の見直しや近年多発する大規模災害に備えた防災対策など、安全面を考慮した施設改修が求められているため、適切に対応していく必要があります。

(3) 今後の施設の考え方

幅広い年齢層の多くの地域住民が利用する病院施設であるため、必要な設備点検・保守業務は適切に実施していくとともに、毎年建築士に委託し、法定である建築物等の定期点検を行うことで、適正な施設の維持管理と安全管理に努めます。

今後は、ボイラー設備や昇降機、医療ガス供給設備、医師住宅などが更新時期を迎え、高額な経費を要することから、年次計画的に対応していきます。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	椎葉村国民健康保険病院	1994	26	RC	39	13	新	新		
2	医師住宅	2012	8	W	22	14	新	新		
3	研修医住宅	2011	9	SRC	47	38	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数－経過年数〔基準年度－建築年度〕

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

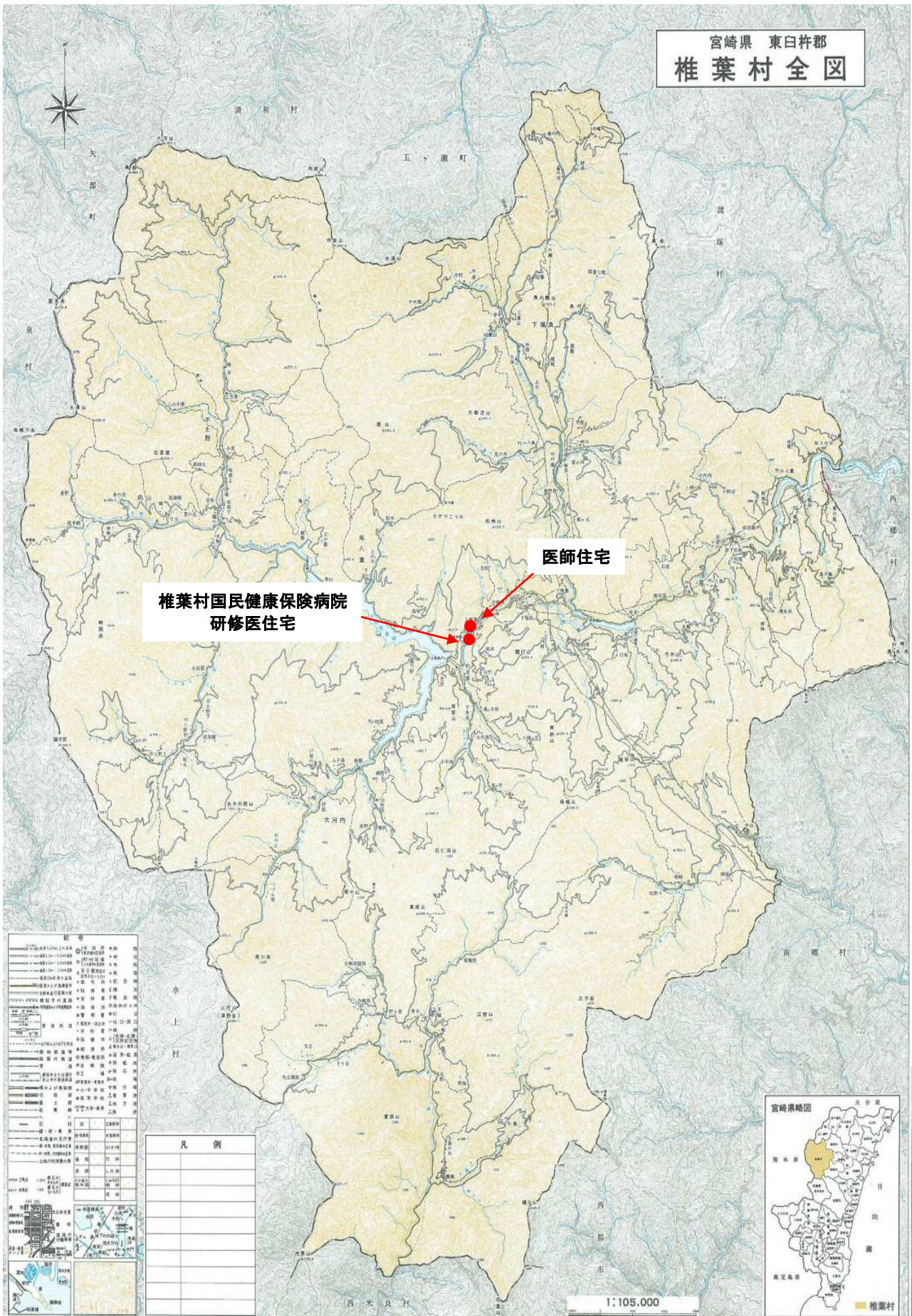
(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1人当たりコスト(円)
1	椎葉村国民健康保険病院	2,263	365	26,261	7,352,334	3,249	280
2	医師住宅	107	365	4	100,000	935	25,000
3	研修医住宅	115	365	17	50,000	435	2,942

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29～R1年度)の平均を記載

(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

5. 施設配置状況



6. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	椎葉村国民健康保険病院	大規模改修は当面行わず、経年劣化に対応した設備の更新や修繕のほか、新たな感染症や防災対策に伴う改修は必要に応じて適時実施していきます。
2	医師住宅	医師住宅1棟が旧公共施設を改修した住宅であるため、経年劣化が進みつつあり、令和4年度までに改修工事を行います。
3	研修医住宅	建築年度が比較的新しいため、当面は施設の維持管理のみ行います。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	椎葉村国民健康保険病院	病院	対策内容	改修	改修	改修	点検	点検	点検
			対策費用	25,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
2	医師住宅	住宅	対策内容	改修	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	15,000	200	200	200	200	200
3	研修医住宅	住宅	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
			対策費用	50	50	50	50	50	50

【その他施設】

総務課
建設課

1. 対象施設

令和2年度末現在のその他施設は6施設で、延べ床面積の合計は405㎡となっております。

No.	施設名	所在地	総床面積 (㎡)	棟数
1	旧仲塔生活改善センター(消防器庫)	椎葉村大字下福良1181-1	120	1
2	椎葉村防災備蓄倉庫	椎葉村大字下福良1762	11	1
3	尾向地区ヘリポート場燃料庫	椎葉村大字不土野627-18	12	1
4	上椎葉農業倉庫	椎葉村大字下福良1771	102	1
5	那須橋倉庫	椎葉村大字下福良511	80	1
6	中椎葉倉庫	椎葉村大字下福良586	80	1
合 計			405	6

2. 計画期間

令和3年(2021年)度から令和8年(2026年)度までの6年間とし、施設使用状況等を踏まえて、適宜、計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

旧仲塔生活改善センター(消防器庫)・椎葉村防災備蓄倉庫・尾向地区ヘリポート場燃料庫については、災害等が発生した際の消防拠点施設としての役割を担うため設置されています。

上椎葉農業倉庫については、イベント等の物品保管及び文書を保管するための施設として設置されております。

那須橋倉庫・中椎葉倉庫については、建設資材及び工具を保管するための施設として設置されております。

(2) 現状と課題

現状で耐用年数を経過又は耐用年数を迎える施設が複数あり、特に上椎葉農業倉庫については建築後50年以上が経過しており老朽化が著しい状況であるため今後の維持管理について検討する時期にきております。

また、消防拠点施設等については災害等が発生した際の重要な施設であるため、適正な維持管理が必要となってきます。

倉庫については、耐用年数が近づいてきているので、適正な維持管理が必要となってきます。

(3) 今後の施設の考え方

旧仲塔生活改善センター(消防器庫)・椎葉村防災備蓄倉庫・尾向地区ヘリポート場燃料庫については、地域防災の拠点となる重要な施設であるため、今後適正な維持管理を検討し、施設の長寿命化を図っていく事が必要となります。

上椎葉農業倉庫については、大幅に耐用年数を超え老朽化が著しいため、調査を行った上で今後建替や改修、移転等も検討していく必要があります。

那須橋倉庫・中椎葉倉庫について、道路維持に必要な工具及び資材を保管している為、今後も適正な管理が必要となります。

4. 施設の状況等

(1) 施設性能

No.	施設名	建築年度	経過年数	構造	耐用年数	残寿命年数(年)	耐震		大規模改修	
							診断	改修	年度	改修
1	旧仲塔生活改善センター(消防器庫)	1983	37	RC	38	1	新	新		
2	椎葉村防災備蓄倉庫	2016	4		7	3	新	新		
3	尾向地区ヘリポート場燃料庫	2019	1	CB	34	33	新	新		
4	上椎葉農業倉庫	1968	52	W	15	0	未	未		
5	那須橋倉庫	2004	16	LGS	24	8	新	新		
6	中椎葉倉庫	2012	8	LGS	24	16	新	新		

(注1) 令和2年度末現在の状況について記載

(注2) 複数の建物からなる施設については、主たる建物について記載

※構造:W=木造、RC=鉄筋コンクリート、SRC=鉄筋鉄骨コンクリート、S=鉄骨、LGS=軽量鉄骨、CB=コンクリートブロック

※残寿命年数:耐用年数-経過年数[基準年度-建築年度]

※耐震診断:新=新耐震基準(建築年がS57年以降)、済=旧耐震基準(建築年がS56年以前)であるが耐震診断実施済み、未=旧耐震基準で耐震診断が未実施、不=旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断不要

※耐震改修:新=新耐震基準、済=耐震改修が実施済み、未=耐震診断未実施又は耐震改修が必要だが未実施、不=旧耐震基準であるが耐震改修が不要

※大規模改修:屋=屋根改修・屋上防水改修、壁=外壁改修、他=設備改修・内装その他改修

(2) 利用・運営状況

No.	施設名	総床面積(m ²)	稼働日数(日)	年間利用者数(人)	年間コスト(円)	m ² 当たりコスト(円)	1日当たりコスト(円)
1	旧仲塔生活改善センター(消防器庫)	120	365	20	10,000	84	500
2	椎葉村防災備蓄倉庫	11	365	4	0	0	0
3	尾向地区ヘリポート場燃料庫	12	0	4	0	0	0
4	上椎葉農業倉庫	102	365	56	5,040	50	90
5	那須橋倉庫	80	365	17	0	0	0
6	中椎葉倉庫	80	365	17	5,939	75	350

(注) 稼働日数、年間利用者数、年間コストは、過去3年間(H29~R1年度)の平均を記載

(注) 年間利用者数は、職員については年間平均数、その他の利用者については延べ人数を記載

6. 適正化計画

現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次のとおりです。

(1) 今後の方針

No.	施設名	方針
1	旧仲塔生活改善センター(消防器庫)	消防団に適正な維持管理を指導しながら、年2回の防火査察の際に、消防団による施設の清掃や点検等を行い、修繕等の要望があった場合は、村による調査・検討を行い施設の適正な維持管理を行います。
2	椎葉村防災備蓄倉庫	重要な防災備蓄倉庫であることから、平時から施設の清掃や点検等を行い、施設の適正な維持管理を行います。また、椎葉村の備蓄計画に基づき、村で最低限必要な物資を適切に計画的に備蓄していき、適正に保管、管理、更新等を行います。
3	尾向地区ヘリポート場燃料庫	県防災ヘリ「あおぞら」の燃料庫であり、重要な防災拠点施設であることから、県と協力しながら、平時から燃料の適切な管理及び施設の適正な維持管理を行います。
4	上椎葉農業倉庫	耐用年数を大幅に超え老朽化が進行しているため、継続利用が可能か調査を行いその結果を踏まえて施設の建替や改修、もしくは移転・解体を検討していきます。
5	那須橋倉庫	耐用年数が近づいているため、適宜調査を行いながら安全管理に努めていきます。
6	中椎葉倉庫	耐用年数に期間がある為、例年通り安全管理に努めていきます。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

(単位:千円)

No.	施設名	棟名称	項目	計画期間					
				R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	旧仲塔生活改善センター(消防器庫)	倉庫	対策内容 対策費用						
2	椎葉村防災備蓄倉庫	倉庫	対策内容 対策費用						
3	尾向地区ヘリポート場燃料庫	倉庫	対策内容 対策費用						
4	上椎葉農業倉庫	倉庫	対策内容 対策費用		診断 1,000	建替 7,000			
5	那須橋倉庫	倉庫	対策内容 対策費用						
6	中椎葉倉庫	倉庫	対策内容 対策費用						

【治山施設】

農林振興課

1. 対象施設

令和2年度末現在の治山施設は77施設となっています。

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度
1	川の口	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995
2	蟬の尾	県単集落防災事業	伏工	1箇所	1995
3	小向	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995
4	尾前	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995
5	入子蒔	集落水源緊急整備事業	伏工	1箇所	1996
6	岩屋戸	自然災害防止治山事業	伏工	1箇所	1996
7	小河内	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997
8	鹿野遊	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997
9	胡麻山	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997
10	間柏原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998
11	不土野	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998
12	滝	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998
13	尾前上	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1999
14	倉の迫	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1999
15	野老ヶ八重	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2000
16	間柏原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2000
17	榎峠	国土保全山村集落整備事業	集水タンク	1基	2000
18	尾谷	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2001
19	間柏原	山村集落機能保全事業	ロックネット工	1箇所	2002
20	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2002
21	合戦原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2002
22	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2003
23	若宮	山村集落機能保全事業	落石防護工	1箇所	2003
24	若宮	山村集落機能保全事業	水質浄化施設	1箇所	2003
25	小河内	水源地整備治山事業	谷止工	1基	2003
26	上椎葉	自然災害防止治山事業	モルタル吹付工	1箇所	2003
27	松木	自然災害防止治山事業	流路工(かご枠)、伏工	1箇所	2004
28	向山日当	県単集落防災事業	筋工、柵工、伏工、かご枠工、水路工	1箇所	2004
29	夜狩内	山村集落機能保全事業	谷止工	1基	2004
30	内の八重	水源地整備治山事業	谷止工	1基	2004
31	古枝尾	林地崩壊防止事業	法枠工、土留工、筋工、柵工、伏工、かご枠工	1箇所	2004
32	不土野中	林地崩壊防止事業	筋工、柵工、伏工、土留工、かご枠工、水路工、土留工	1箇所	2004
33	奥村	林地崩壊防止事業	伏工	1箇所	2004
34	大河内	山村集落機能保全事業	取水施設、防災通信施設	1箇所	2005
35	竹の枝尾	自然災害防止治山事業	かご枠、伏工	1箇所	2005
36	鹿野遊	自然災害防止治山事業	伏工、護岸工	1箇所	2005
37	松木	自然災害防止治山事業	流路工、伏工	1箇所	2005
38	向山日当	県単集落防災事業	植生基材吹付、法枠工	1箇所	2005
39	大河内	山村集落機能保全事業	防災灯設置、水路工、法枠工、伏工	1箇所	2006
40	若宮	自然災害防止治山事業	植生基材吹付、柵工	1箇所	2006

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度
41	下椎葉	自然災害防止治山事業	土留工、伏工、水路工	1箇所	2006
42	向山日当	自然災害防止治山事業	土留工、水路工、伏工	1箇所	2006
43	御輿	自然災害防止治山事業	かご枠、伏工	1箇所	2006
44	上椎葉上	自然災害防止治山事業	伏工、水路工、集水桝	1箇所	2007
45	梅尾	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2008
46	上椎葉	自然災害防止治山事業	伏工、植生基材吹付	1箇所	2008
47	小河内	県単集落防災事業	ロックネット工	1箇所	2008
48	梅尾	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2009
49	今村	自然災害防止治山事業	ロックネット工	1箇所	2009
50	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2009
51	山中	水源の里緊急整備事業	モルタル吹付、植生基材吹付、法枠工、水路工	1箇所	2009
52	佐礼	水源の里緊急整備事業	排土工、モルタル吹付、植生土のう、側壁嵩上げ	1箇所	2009
53	高塚山	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2010
54	佐礼	自然災害防止治山事業	伏工、モルタル吹付	1箇所	2010
55	野々首	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付、モルタル吹付	1箇所	2011
56	下水流	いきいき山村集落機能強化事業	谷止工	1基	2011
57	小向	いきいき山村集落機能強化事業	谷止工	1基	2012
58	滝	自然災害防止治山事業	コンクリート擁壁・BF据付	1箇所	2012
59	矢立・合戦原	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2012
60	城・丸野・矢立	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2012
61	梅尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2013
62	小向地区	いきいき山村集落機能強化事業	避難路整備	1箇所	2013
63	高塚山1工区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2014
64	高塚山2工区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2014
65	不土野地区	山村集落防災機能強化事業	防災灯設置	1箇所	2014
66	若宮地区	山村集落防災機能強化事業	防災灯設置	1箇所	2015
67	尾平地区	県単集落防災事業	モルタル吹付	1箇所	2015
68	春岩尾・新石原地区	県単集落防災事業	伏工	1箇所	2015
69	山中地区	県単集落防災事業	モルタル吹付工	1箇所	2016
70	梅尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2016
71	野々首地区	県単集落防災事業	伏工	1箇所	2017
72	梅尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2017
73	寺床地区	山村集落定住環境緊急整備事業	モルタル吹付工	1箇所	2018
74	尾崎地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2018
75	倉の迫地区	林地崩壊防止事業	簡易法枠工、土留工	1箇所	2018
76	間柏原地区	山村集落定住環境緊急整備事業	落石予防工	1箇所	2019
77	岩屋戸地区	自然災害防止治山事業	簡易法枠工	1箇所	2019

2. 計画期間

令和3年(2021)度から令和8年(2026)度までの6年間とし、施設状況等を踏まえて適宜計画を見直すものとします。

3. 対策優先順位の考え方

(1) 施設の役割

梅雨や台風等による集中豪雨に見舞われやすい気象条件、急峻な山林が多い本村では、地域住民の生命・財産を守る上で治山施設は、重要な役割を果たしています。

また、毎年実施される災害危険箇所調査や災害調査等で確認できた災害危険箇所を年次計画により整備することで水源のかん養、生活環境の保全にも寄与しています。

(2) 現状と課題

治山施設については、年次計画により整備を行っているが、施工にあたっては時間を要する場合もある。また、大型の自然災害により治山施設が被災する場合があります。

従って、災害危険箇所の確認や予防対策、治山施設台帳に基づく、定期的な点検・診断を行い、適切に補修や維持管理、更新を行う必要があります。

(3) 今後の施設の考え方

治山施設台帳に基づき、定期的な点検・診断を行い、適切な補修、維持管理を行うことで治山施設の長寿命化を図ります。

4. 施設の状況、適正化計画

(1) 現状や課題、今後の考え方を踏まえ、検討した適正化計画は次の通りです。

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度	適正化方針
1	川の口	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
2	蟬の尾	県単集落防災事業	伏工	1箇所	1995	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
3	小向	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
4	尾前	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
5	入子蒔	集落水源緊急整備事業	伏工	1箇所	1996	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
6	岩屋戸	自然災害防止治山事業	伏工	1箇所	1996	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
7	小河内	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
8	鹿野遊	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
9	胡麻山	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
10	間柏原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
11	不土野	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
12	滝	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
13	尾前上	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1999	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
14	倉の迫	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1999	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
15	野老ヶ八重	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2000	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
16	間柏原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2000	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
17	榎峠	国土保全山村集落整備事業	集水タンク	1基	2000	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
18	尾谷	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2001	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
19	間柏原	山村集落機能保全事業	ロックネット工	1箇所	2002	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
20	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2002	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
21	合戦原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2002	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
22	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2003	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
23	若宮	山村集落機能保全事業	落石防護工	1箇所	2003	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
24	若宮	山村集落機能保全事業	水質浄化施設	1箇所	2003	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
25	小河内	水源整備治山事業	谷止工	1基	2003	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度	適正化方針
26	上椎葉	自然災害防止治山事業	モルタル吹付工	1箇所	2003	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
27	松木	自然災害防止治山事業	流路工(かご枠)、伏工	1箇所	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
28	向山日当	県単集落防災事業	筋工、柵工、伏工、カゴ枠工、水路工	1箇所	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
29	夜狩内	山村集落機能保全事業	谷止工	1基	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
30	内の八重	水源地整備治山事業	谷止工	1基	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
31	古枝尾	林地崩壊防止事業	法枠工、土留工、筋工、柵工、伏工、かご枠工	1箇所	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
32	不土野中	林地崩壊防止事業	筋工、柵工、伏工、土留工、かご枠工、水路工、土留工	1箇所	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
33	奥村	林地崩壊防止事業	伏工	1箇所	2004	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
34	大河内	山村集落機能保全事業	取水施設、防災通信施設	1箇所	2005	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
35	竹の枝尾	自然災害防止治山事業	かご枠、伏工	1箇所	2005	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
36	鹿野遊	自然災害防止治山事業	伏工、護岸工	1箇所	2005	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
37	松木	自然災害防止治山事業	流路工、伏工	1箇所	2005	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
38	向山日当	県単集落防災事業	植生基材吹付、法枠工	1箇所	2005	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
39	大河内	山村集落機能保全事業	防災灯設置、水路工、法枠工、伏工	1箇所	2006	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
40	若宮	自然災害防止治山事業	植生基材吹付、柵工	1箇所	2006	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
41	下椎葉	自然災害防止治山事業	土留工、伏工、水路工	1箇所	2006	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
42	向山日当	自然災害防止治山事業	土留工、水路工、伏工	1箇所	2006	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
43	御輿	自然災害防止治山事業	かご枠、伏工	1箇所	2006	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
44	上椎葉上	自然災害防止治山事業	伏工、水路工、集水柵	1箇所	2007	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
45	梶尾	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2008	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
46	上椎葉	自然災害防止治山事業	伏工、植生基材吹付	1箇所	2008	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
47	小河内	県単集落防災事業	ロックネット工	1箇所	2008	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
48	梶尾	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2009	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
49	今村	自然災害防止治山事業	ロックネット工	1箇所	2009	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
50	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2009	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
51	山中	水源の里緊急整備事業	モルタル吹付、植生基材吹付、法枠工、水路工	1箇所	2009	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度	適正化方針
52	佐礼	水源の里緊急整備事業	排水工、モルタル吹付、植生土のう、側壁嵩上げ	1箇所	2009	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
53	高塚山	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2010	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
54	佐礼	自然災害防止治山事業	伏工、モルタル吹付	1箇所	2010	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
55	野々首	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付、モルタル吹付	1箇所	2011	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
56	下水流	いきいき山村集落機能強化事業	谷止工	1基	2011	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
57	小向	いきいき山村集落機能強化事業	谷止工	1基	2012	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
58	滝	自然災害防止治山事業	コンクリート擁壁・BF据付	1箇所	2012	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
59	矢立・合戦原	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2012	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
60	城・丸野・矢立	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2012	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
61	梅尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2013	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
62	小向地区	いきいき山村集落機能強化事業	避難路整備	1箇所	2013	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
63	高塚山1工区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2014	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
64	高塚山2工区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2014	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
65	不土野地区	山村集落防災機能強化事業	防災灯設置	1箇所	2014	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
66	若宮地区	山村集落防災機能強化事業	防災灯設置	1箇所	2015	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
67	尾平地区	県単集落防災事業	モルタル吹付	1箇所	2015	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
68	春岩尾・新石原地区	県単集落防災事業	伏工	1箇所	2015	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
69	山中地区	県単集落防災事業	モルタル吹付工	1箇所	2016	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
70	梅尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2016	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
71	野々首地区	県単集落防災事業	伏工	1箇所	2017	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
72	梅尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2017	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
73	寺床地区	山村集落定住環境緊急整備事業	モルタル吹付工	1箇所	2018	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
74	尾崎地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2018	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
75	倉の迫地区	林地崩壊防止事業	簡易法枠工、土留工	1箇所	2018	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
76	間柏原地区	山村集落定住環境緊急整備事業	落石予防工	1箇所	2019	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。
77	岩屋戸地区	自然災害防止治山事業	簡易法枠工	1箇所	2019	治山施設の健全度や施設周辺の森林の荒廃状況等の把握、ハンマー等の簡易な器具による点検を行い、必要があれば適正補修を行います。

(2) 計画期間内(6年)の対策内容及び対策費用

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度	項目	計画期間					
							R3	R4	R5	R6	R7	R8
1	川の口	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
2	蟬の尾	県単集落防災事業	伏工	1箇所	1995	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
3	小向	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
4	尾前	過疎地域水源緊急整備事業	谷止工	1基	1995	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
5	入子蒔	集落水源緊急整備事業	伏工	1箇所	1996	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
6	岩屋戸	自然災害防止治山事業	伏工	1箇所	1996	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
7	小河内	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
8	鹿野遊	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
9	胡麻山	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1997	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
10	間柏原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
11	不土野	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
12	滝	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1998	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
13	尾前上	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1999	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
14	倉の迫	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	1999	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
15	野老ヶ八重	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2000	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
16	間柏原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2000	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
17	榎峠	国土保全山村集落整備事業	集水タンク	1箇所	2000	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
18	尾谷	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2001	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
19	間柏原	山村集落機能保全事業	ロックネット工	1箇所	2002	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
20	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2002	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
21	合戦原	集落水源緊急整備事業	谷止工	1基	2002	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
22	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2003	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
23	若宮	山村集落機能保全事業	落石防護工	1箇所	2003	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
24	若宮	山村集落機能保全事業	水質浄化施設	1箇所	2003	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
25	小河内	水源整備治山事業	谷止工	1基	2003	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
26	上椎葉	自然災害防止治山事業	モルタル吹付工	1箇所	2003	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度	項目	計画期間					
							R3	R4	R5	R6	R7	R8
27	松木	自然災害防止治山事業	流路工(かご枠)、伏工	1箇所	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
28	向山日当	県単集落防災事業	筋工、柵工、伏工、カゴ枠工、水路工	1箇所	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
29	夜狩内	山村集落機能保全事業	谷止工	1基	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
30	内の八重	水源地整備治山事業	谷止工	1基	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
31	古枝尾	林地崩壊防止事業	法枠工、土留工、筋工、柵工、伏工、かご枠工	1箇所	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
32	不土野中	林地崩壊防止事業	筋工、柵工、伏工、土留工、かご枠工、水路工、土留工	1箇所	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
33	奥村	林地崩壊防止事業	伏工	1箇所	2004	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
34	大河内	山村集落機能保全事業	取水施設、防災通信施設	1箇所	2005	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
35	竹の枝尾	自然災害防止治山事業	かご枠、伏工	1箇所	2005	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
36	鹿野遊	自然災害防止治山事業	伏工、護岸工	1箇所	2005	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
37	松木	自然災害防止治山事業	流路工、伏工	1箇所	2005	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
38	向山日当	県単集落防災事業	植生基材吹付、法枠工	1箇所	2005	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
39	大河内	山村集落機能保全事業	防災灯設置、水路工、法枠工、伏工	1箇所	2006	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
40	若宮	自然災害防止治山事業	植生基材吹付、柵工	1箇所	2006	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
41	下椎葉	自然災害防止治山事業	土留工、伏工、水路工	1箇所	2006	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
42	向山日当	自然災害防止治山事業	土留工、水路工、伏工	1箇所	2006	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
43	御輿	自然災害防止治山事業	かご枠、伏工	1箇所	2006	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
44	上椎葉上	自然災害防止治山事業	伏工、水路工、集水柵	1箇所	2007	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
45	梅尾	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2008	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
46	上椎葉	自然災害防止治山事業	伏工、植生基材吹付	1箇所	2008	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
47	小河内	県単集落防災事業	ロックネット工	1箇所	2008	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
48	梅尾	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2009	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
49	今村	自然災害防止治山事業	ロックネット工	1箇所	2009	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
50	上椎葉	山村集落機能保全事業	防災灯設置	1箇所	2009	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
51	山中	水源の里緊急整備事業	モルタル吹付、植生基材吹付、法枠工、水路工	1箇所	2009	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
52	佐礼	水源の里緊急整備事業	擁壁工、モルタル吹付、植生土のう、側壁嵩上げ	1箇所	2009	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						

No.	箇所名	事業名	工種名	単位	施工年度	項目	計画期間					
							R3	R4	R5	R6	R7	R8
53	高塚山	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付	1箇所	2010	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
54	佐礼	自然災害防止治山事業	伏工、モルタル吹付	1箇所	2010	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
55	野々首	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	植生基材吹付、モルタル吹付	1箇所	2011	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
56	下水流	いきいき山村集落機能強化事業	谷止工	1基	2011	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
57	小向	いきいき山村集落機能強化事業	谷止工	1基	2012	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
58	滝	自然災害防止治山事業	コンクリート擁壁・BF据付	1箇所	2012	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
59	矢立・合戦原	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2012	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
60	城・丸野・矢立	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2012	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
61	梶尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2013	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
62	小向地区	いきいき山村集落機能強化事業	避難路整備	1箇所	2013	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
63	高塚山1工区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工、木柵工	1箇所	2014	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
64	高塚山2工区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2014	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
65	不田野地区	山村集落防災機能強化事業	防災灯設置	1箇所	2014	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
66	若宮地区	山村集落防災機能強化事業	防災灯設置	1箇所	2015	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
67	尾平地区	県単集落防災事業	モルタル吹付	1箇所	2015	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
68	春岩尾・新石原地区	県単集落防災事業	伏工	1箇所	2015	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
69	山中地区	県単集落防災事業	モルタル吹付工	1箇所	2016	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
70	梶尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2016	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
71	野々首地区	県単集落防災事業	伏工	1箇所	2017	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
72	梶尾地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2017	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
73	寺床地区	山村集落定住環境緊急整備事業	モルタル吹付工	1箇所	2018	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
74	尾崎地区	一ツ瀬川及び小丸川上流域崩壊地等緑化事業	かまくらマット工	1箇所	2018	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
75	倉の迫地区	林地崩壊防止事業	簡易法枠工、土留工	1箇所	2018	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
76	間柏原地区	山村集落定住環境緊急整備事業	落石予防工	1箇所	2019	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						
77	岩屋戸地区	自然災害防止治山事業	簡易法枠工	1箇所	2019	対策内容	点検	点検	点検	点検	点検	点検
						対策費用						